報告１４

部長会議付議事案書（報告）

（令和８年１月５日）
提案課名　はだの魅力づくり推進課
報告者名　野尻　和秀

事案名	ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画の見直しについて	資料　有

提案趣旨	表丹沢魅力づくり構想で位置付けた３つのエリア別方向性のうち、県道７０号沿いを中心としたヤビツ峠・蓑毛周辺エリア（表丹沢東エリア）について、令和５年から７年度までを計画期間とし、豊かな自然や歴史文化を起点に地域と来訪者との結びつきから、体験や協働を通じた持続可能な地域の創出を目的として、「自然と歴史文化がいきづく自分らしさに出会える場所」をコンセプトとする「ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画」を策定しました。今回、表丹沢魅力づくり構想の更新と合わせ、内容の見直しを行い、改定案を作成しましたので、報告するものです。
概要	１　計画の趣旨・目的 表丹沢魅力づくり構想に掲げる表丹沢東エリアの県道７０号沿いを中心としたヤビツ峠・蓑毛周辺エリアを対象に、魅力や課題を踏まえ、具体的な実施事業を明確にするとともに、表丹沢の豊かな自然の保護と利用の好循環や点在する様々な資源の活用による持続可能な地域を創出するもの。 ２　計画期間 令和８年度（2026年度）から令和１２年度（2030年度）までの５年間 ３　計画案の構成 はじめに 第１章　計画の改定に当たって（改定の趣旨、位置付けと期間等） 第２章　ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境（社会潮流と地域の課題、前計画の評価等） 第３章　ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿（地域のポテンシャル、計画のコンセプト等） 第４章　計画の実現に向けて（推進体制、進行管理）
経過	１　秦野市ヤビツ峠・蓑毛未来会議における検討 第１回　令和７年　５月２１日　現行計画の進行管理と計画改定の報告 第２回　〃　１２月　１日　計画改定に係る施策体系及び個別施策の協議 同月　８日～１５日　計画案に係る意見聴取

経過	２　計画案に対する庁内意見照会 ⑴　関係課　令和７年１１月１７日～２６日　ＫＰＩ等の見直しを依頼 ⑵　全庁　　　　〃　１２月　８日～１５日　計画案に係る意見聴取
今後の進め方	令和８年　１月１６日　議員連絡会で報告（意見聴取：３月９日まで） 〃　　２月　１日　パブリックコメントの実施 （広報はだの２月１日号掲載、意見募集：３月２日まで） 〃　　３月末　　ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画改定 改定後は、引き続き、各主体の取組を推進するとともに、未来会議等において進行管理を行いながら計画の具現化を目指していきます。

資料１

ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画の改定について

令和８年１月５日

環境産業部はだの魅力づくり推進課

１　計画の趣旨とコンセプト（Ｐ４）

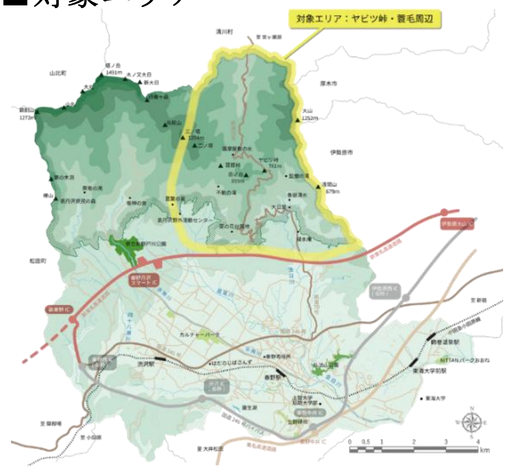
本計画は、表丹沢魅力づくり構想（以下「構想」という。）で位置付けた３つのエリア別方向性のうち、県道７０号沿いを中心としたヤビツ峠・蓑毛周辺エリア（表丹沢東エリア、以下「本エリア」という。）について、豊かな自然や歴史文化を起点とした地域と来訪者との結びつきから、体験や協働を通じた持続可能な地域の創出と活性化を目的として、構想の更新と併せた改定を行うものです。

■コンセプト（継続）

本エリアのポテンシャルを最大限に生かし、更なる魅力を向上させていくため、現行計画のコンセプトを引き継ぐこととします。

自然と歴史文化がいきづく
自分らしさに出会える場所

■対象エリア



２　位置付け及び計画期間（Ｐ４）

(1)　位置付け

構想のアクションプランとして位置付けます。また、「秦野市総合計画」等の上位計画をはじめ、「秦野市観光振興基本計画」など、各種関連計画との整合を図るとともに、丹沢大山国定公園に関する施策やＳＤＧｓの理念等を踏まえた具体的な施策を明らかにすることにより、本エリアの課題解決に向けた取組を推進するものです。

(2)　計画期間

令和８年度（2026 年度）から令和１２年度（2030 年度）までの５年間

構想と合わせた令和１２年度までとしますが、施策の進行状況や社会情勢の変化などに鑑み、必要に応じた見直し（発展的解消を含む。）を行います。

３　現行計画の評価（Ｐ１５～）

本計画の改定に当たり、個別施策に関係する庁内各課においては、進行管理シートの作成を義務付ける中でのヒアリングを、また、関係事業者においても、会議体による意見交換の場を設け、各主体が進める施策の進捗の整理と評価を行いました。（令和６年度実績）

区分	数値目標実績評価	総合的な自己評価
Ａの項目数（達成率100%以上）	14（82%）	10（59%）
Ｂの項目数（　〃　75%以上100%未満）	1（6%）	5（29%）
Ｃの項目数（　〃　50%以上75%未満）	0（0%）	1（6%）
Ｄの項目数（　〃　50%未満）	1（6%）	1（6%）
R6数値目標なし　または、自己評価できず	1（6%）	0（0%）

概ね、計画どおりに施策が展開されていました。

４　基本方針と施策体系（Ｐ１９）

(1)　施策体系の再編ポイント

現行計画の『章立て型（体験造成、拠点整備、情報発信など、テーマごとの施策配置）』の体系から、来訪者の行動や地域運営の実態に即した**『一気通貫型（「訪れる☞巡る☞触れる☞また訪れる」といった連続した体験（縦の流れ）に対応）』へ再編**しました。

これは、人・組織づくりとして「ヤビツ峠・蓑毛未来会議」の設立・運営が、地域の横のつながりを生み出す重要な位置付けとなったことから、次のフェーズに求められる維持・運営・協働に即応できる推進体制の機能向上を視野に入れたものです。

また、本計画では、施策を「テーマごと」とするのではなく、**①周遊交通・観光の充実／②快適な体験機会の拡充／③横断的な地域連携といった、目的や価値ごとの方針に再構成**し、引き続き、本エリアがコンセプトである『自然と歴史文化がいきづく自分らしさに出会える場所』となるよう推進していくこととします。

(2)　ＫＰＩ設定の再編ポイント

これまでの評価や現状課題を踏まえた指標、さらには、**満足度といったアウトカム指標を積極的に採用**するとともに、７つの施策区分ごとに、中心的な施策に対して１つ以上を設定しました。**⇒７施策区分１１指標**

(3)　新たな施策体系（ＫＰＩを含む。）

（施策体系に係る新旧比較は「資料２」のとおり）

基本方針 / 方向性 / 個別施策 《★：KPIが紐づくもの》	KPI
１ 周遊交通・観光の充実	
【訪れやすさを高めるアクセス環境の充実】	
施１　周遊型交通サービス等の検討★	施１：周遊交通サービスを支える運転士確保に向けた協力回数
施２　道路環境の充実	
【多様な来訪者が共存できる移動環境の構築】	
施３　眺望・景観の整備	施４：県道７０号利用者の満足度（①清潔感／②快適・安全性：５段階評価）
施４　道路環境の充実（再掲）★	
２ 快適な体験機会の拡充	
【地域の魅力を深く味わう体験機会の提供】	
施１　滞在型コンテンツの造成	施２：林道を活用したイベントの開催回数（年間） 施４：エリアをフィールドとした年間のOMOTANガイドツアーの満足度（５段階評価）
施２　林道を活用したイベントの充実★	
施３　特産品や食コンテンツの開発	
施４　ガイド人材の積極的な活用★	
【快適に滞在できる交流・休憩拠点の整備】	
施５　滞在拠点の整備・充実（①②③）★★	施５：①緑水庵の利用者数（年間）／②菜の花台園地の利用満足度（５段階評価）
施６　遊休資産の多面的活用	
【安全で心地よい利用環境の拡充】	
施７　トイレ環境の充実★	施７：ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度（①において、②清潔さ、③明るさ） 施９：啓発イベント等の開催数（年間）
施８　眺望・景観の整備（再掲）	
施９　マナー等の情報発信の充実★	
３ 横断的な地域連携	
【地域をつなぐ情報共有と発信の推進体制】	
施１　観光情報等の充実★★	施１：エリア内に関連したSNS(Instagram)の発信回数／Instagram(ｽﾄｰﾘｰｽﾞ)のアンケート回答数
施２　マナー等の情報発信の充実（再掲）	
【協働で運営する体制づくり】	
施３　包括的な推進体制の構築	施４：エリア内の資源を活用した魅力創出事業の提案数（年間）
施４　地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり★	
施５　観光情報等の充実（再掲）	

ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画に係る新たな施策体系【新旧比較】

資料２

【数値目標達成状況の評価区分】
Ａ（達成率100%以上）、Ｂ（達成率75%以上100%未満）、Ｃ（50%以上75%未満）、Ｄ（達成率50%未満）

【数値目標の評価を踏まえた自己評価の区分（５段階）】
Ａ（順調に進んでいる）、Ｂ（概ね順調に進んでいる）、Ｃ（やや遅れている）、Ｄ（遅れている）

／　現行計画の施策体系　＼

No.	基本方針	項目	個別施策	指標	数値目標	数値実績	達成率	数値目標実績評価	総合的な各課等の自己評価
1	地域資源を活用した新たなサービスの造成	施策１	滞在型コンテンツの造成	新たな滞在型コンテンツの参加者数（年間）	50	363	726%	A	A
		施策２	林道を活用したイベントの充実	林道を活用したイベントの開催回数（年間）	10	23	230%	A	A
		施策３	特産品や食コンテンツの開発	開発した特産品や食コンテンツの数	1	4	400%	A	A
2	滞在環境の魅力の向上	施策１	滞在拠点の整備・充実 ①緑水庵・蓑毛自然観察の森の整備・活用	緑水庵の年間利用者数	1,700	2,019	119%	A	A
			滞在拠点の整備・充実 ②菜の花台園地の休憩施設としての魅力向上	滞在拠点の魅力向上に向けた写真スポットや散策路等の整備数（年間）	1	1	100%	A	B
			滞在拠点の整備・充実 ③来訪者の満足度を高める取組み	公共施設へのサイクルラックの設置箇所数（累計）	4	12	300%	A	A
		施策２	トイレ環境の充実	ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度（①におい、②清潔さ、③明るさ）	全て80%	①70% ②92% ③92%	108%	A	B
		施策３	眺望・景観の整備	修景に配慮した森林整備を実施したエリア数	2	2	100%	A	A
		施策４	遊休資産の活用と鳥獣被害対策	環境整備や遊休資産を活用したイベントの実施回数（年間）	3	4	133%	A	B
3	交通ネットワークの充実	施策１	レンタサイクルの検討	レンタサイクルの拠点数（累計）	－	－	0%	－	B
		施策２	周遊型交通サービス等の検討	周遊交通サービス運行台数	1	0	0%	D	D
		施策３	道路環境の充実	ボランティアによる県道７０号の清掃活動の実施回数（年間）	5	4	80%	B	A
4	人を起点とした魅力づくり	施策１	包括的な推進体制の構築	推進主体組織「ヤビツ峠・蓑毛未来会議」の参加人数	15	17	113%	A	A
		施策２	ガイド人材の育成講座の実施	認定ガイド数（累計）	8	11	138%	A	A
		施策３	地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり	地域内外との連携で新たに実施する事業数（年間）	1	1	100%	A	C
5	情報発信の充実	施策１	観光情報等の充実	エリア内に関連したPR動画の再生回数（累計）	29万回	69.3万回	239%	A	B
		施策２	マナー等の情報発信の充実	啓発イベント等の開催数（年間）	3	5	167%	A	A

見直し・再構成

／　新規計画の施策体系　＼

基本方針 ／ 方向性 ／ 基本施策 旧計画の基本方針及び施策を「一気通貫型」の新体系に再構成【★：新計画でもKPIが紐づく取組】	KPI（**太字**は見直して設定するもの）
1　周遊交通・観光の充実	
【訪れやすさを高めるアクセス環境の充実】	
施１　周遊型交通サービス等の検討★	**周遊交通サービスを支える運転士確保に向けた協力回数**
施２　道路環境の充実	
~~施３　レンタサイクルの検討~~	民間事業者による実証実験結果(R5)を踏まえ、第２期秦野市観光振興基本計画において、「導入を検討しない」こととなったため同様の取り扱いとする。
【多様な来訪者が共存できる移動環境の構築】	
施３　眺望・景観の整備	**県道７０号利用者の満足度（①清潔感／②快適・安全性：５段階評価）**
施４　道路環境の充実（再掲）★	
2　快適な体験機会の拡充	
【地域の魅力を深く味わう体験機会の提供】	
施１　滞在型コンテンツの造成	林道を活用したイベントの開催回数（年間）
施２　林道を活用したイベントの充実★	
施３　特産品や食コンテンツの開発	**エリアをフィールドとした年間のOMOTANガイドツアーの満足度（５段階評価）**
施４　ガイド人材の積極的な活用★	
【快適に滞在できる交流・休憩拠点の整備】	
施５　滞在拠点の整備（①②③）★★	①緑水庵の利用者数（年間） **②菜の花台園地の利用満足度（５段階評価）** ③設定なし
施６　遊休資産の活用と鳥獣被害対策	
【安全で心地よい利用環境の拡充】	
施７　トイレ環境の充実★	ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度（①におい、②清潔さ、③明るさ）
施８　眺望・景観の整備（再掲）	
施９　マナー等の情報発信の充実★	啓発イベント等の開催数（年間）
3　横断的な地域連携	
【地域をつなぐ情報共有と発信の推進体制】	
施１　観光情報等の充実★★	**・エリア内に関連したSNS（Instagram）の発信回数 ・Instagram（ストーリーズ）のアンケート回答数**
施２　マナー等の情報発信の充実（再掲）	
【協働で運営する体制づくり】	
施３　包括的な推進体制の構築	**エリア内の資源を活用した魅力創出事業の提案数（年間）**
施４　**地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり★**	
施５　観光情報等の充実（再掲）	

■見直し・再構成のポイント①（施策体系）

○現行計画の『章立て型（体験造成、拠点整備、情報発信など、テーマごとに施策を配置）』の体系から、来訪者の行動や地域運営の実態に即した**『一気通貫型（「訪れる→巡る→触れる→また訪れる」といった連続した体験（縦の流れ）に対応）』**へ再編した。
これは、現行計画の成果、特に、人・組織づくりとして「ヤビツ峠・蓑毛未来会議」の設立・運営が地域の横のつながりを生み出す重要な位置付けとなったことにより、次のフェーズに求められる「維持・運営・協働」に即応できる推進体制の機能向上を視野に入れたもの。

○新規計画では、施策を「テーマごと」とするのではなく、①周遊交通・観光の充実／②快適な体験機会の拡充／③横断的な地域連携という目的や価値ごとの方針に再構成し、引き続き、当エリアがコンセプトである『自然と歴史文化がいきづく　自分らしさに出会える場所』となるよう推進していくこととした。

	数値目標実績評価	総合的な各課等の自己評価
Ａの項目数	14 (82%)	10 (59%)
Ｂの項目数	1 (6%)	5 (29%)
Ｃの項目数	0 (0%)	1 (6%)
Ｄの項目数	1 (6%)	1 (6%)
R6数値目標なし　または自己評価できず	1 (6%)	0 (0%)
合計	17	17

■見直し・再構成のポイント②（ＫＰＩの設定）

○これまでの評価や、現状課題を踏まえた指標、さらには、満足度といった**アウトカム指標**を積極的に設定した。

○７つの施策区分ごとに、**中心的な施策**に対して１つ以上を設定した。
→同一区分の中で２つ設定している施策（２－２，４／２－７，９）については、現行の体系で別にあったものをまとめたが、引き続き、中心的な役割を担う施策として位置付けていくもの。
⇒７施策区分１１指標

○純粋な新規のＫＰＩとしては、「３－１：観光情報等の充実」に**ＳＮＳを最大活用**したものを追加した。

資料３

ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画案

『表丹沢魅力づくり構想アクションプラン（エリア別施策）』

自然と歴史文化がいきづく 自分らしさに出会える場所

OMOTAN
表 丹 沢

※注
計画書中で使用しているマップ等については、時点修正前のものです。

令和８年(2026年)　月

秦野市
Hadano City

凡　例

■　年及び年度の表記は、原則として「和暦」を使用しています。（一部例外あり）

■　単位の繰上げは、原則として四捨五入によっています。単位の繰上げにより内数の合計数値と合計欄の数値が一致しないことがあります。
また、構成比(%)についても、単位の繰上げのため、合計が「100」とならない場合があります。

目次

自然と歴史文化がいきづく
自分らしさに出会える場所

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

令和　年(20　年)のある日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

第１章　計画の改定に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

１　計画改定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
２　計画の位置付けと期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
３　計画の対象エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

第２章　ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境・・・・・・・・・・・・・・７

１　地域の特徴と主な資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
【より詳細な項目については「表丹沢魅力づくり構想（令和８年度版）」をご参照ください】
２　社会潮流と地域の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
３　各種アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
４　前計画の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

第３章　ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿・・・・・・・・・・・・・・１７

１　地域のポテンシャル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
２　計画のコンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
３　基本方針と施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
４　個別施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

第４章　計画の実現に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

１　推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
２　進行管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

はじめに

朝のひんやりとした風が谷間を抜け、丹沢の稜線をやわらかく照らし出していた。
ヤビツ峠の朝は、今日もゆっくりと動き始める。

まだ日が浅い時間帯、舗装された路面に差し込む光が、木々の影を細く長く伸ばしている。
その道を、ランナー、登山者、E-bikeの利用者が、それぞれの速さで進んでいく。
かつて、この細い峠道では、歩行者と自転車、車が互いの存在に気づきにくかった。だが、視認性を高める標識やカーブミラーの設置、注意を促すポイントの追加など、行政と地域が積み重ねてきた改善が、人々の譲り合いを自然な光景にしていた。**（1-1訪れやすさを高めるアクセス環境の改善／1-2多様な利用者が共存できる移動環境の構築）**
峠へ向かう途中に、木漏れ日の中にたたずむ“緑水庵”がある。ここでは、整備された駐車場の空きスペースや、多目的広場で今日のルートを確かめるように地図を眺める人がいた。昔ながらのベンチには木のぬくもりがあり、訪れた者をそっと受け止めてくれる。**（滞在拠点の整備・充実「緑水庵・蓑毛自然観察の森の整備・活用」）**
登山者、家族連れ、そしてランナー。多様な人々が気負わず立ち寄れる場所として、数年前より確実に“質の高さ”が増していた。**（1-3快適に滞在できる交流・休憩拠点の整備）**

さらに峠を上がると、菜の花台園地にたどり着く。
ここは、これまで取り組んできたことの中でも象徴的な変化が生まれた場所だ。駐車場の一角から、サンドウィッチやコーヒーの香りが漂ってくる。週末の名物となったキッチンカー。**（滞在拠点の整備・充実）**
山の澄んだ空気に、コーヒーの香ばしさが驚くほどよく似合う。景色を眺めながら、温かい飲み物を手に取る人々が、自然と微笑んでしまうような空間がここにはあった。**（眺望・景観の整備）**
清潔で使いやすく整備されたトイレや、自然の雰囲気を壊さない案内看板。**（トイレ環境の充実／滞在拠点の整備・充実）**それらが一体となって、「ただの展望台」から「滞在したい場所」へと変わっていった。**（2-2安全で心地よい利用環境の維持と向上）**
E-bikeで上がってきた早坂さんは、ハンドルに手を置いたまま深呼吸し、
「写真で見るより、ずっと気持ちいい」
とつぶやいた。
スマートフォンには、インスタグラムのフォロワー数が1万人を超えたOMOTAN公式SNS**（観光情報等の充実）**が投稿する“今日の表丹沢”が並ぶ。その一枚に惹かれて訪れた人は少なくない。山の表情や地域の動きを、地域と行政が同じ視点で発信し続けた結果、ヤビツ峠には新しいファンが増えていた。**（3-1地域でつなぐ情報共有と発信の推進体制）**

峠の上では、OMOTANガイドの林さんが小さなグループを案内していた。
足元の可憐な野草や、季節の移ろいを丁寧に伝えるその姿を、参加者は真剣に、そしてどこか楽しげに見つめている。おもてなしの心と技術を育て、認定したガイド人材は11名。
この山を愛する気持ちと、訪れる人へのまなざしが特徴だ。その温もりが、ここでの体験を“深さ”のあるものに変えていた。**（2-1地域の魅力を深く味わう体験機会の創出）**

以前は不安が残った場所も、今では、注意しながらも安心して歩くことができる。**（道路環境の充実）**自然の呼吸を大切にしながら、必要な場所だけに手を入れる。その姿勢が、山の静けさを損なうことなく、「安心して訪れることができる峠」をつくっていた。
午後の陽射しが傾き始めたころ。ヤビツ峠・蓑毛未来会議**（包括的な推進体制の構築）**のメンバーが、峠のベンチで打合せをしていた。いつもの会議室ではない。ここが“現場で話す場所”になって久しい。
「菜の花台の周遊マップ、もう少し見やすくしたいね」
「来月の案内イベント、広報に載せてもらえそう？」
地域の事業者、体験提供者、行政。立場を超えて自然に生まれる会話。
数年前から続く未来会議は、運営の主体性が増し、“地域の声が地域で動く”構造へと深まりつつあった。**（3-2担い手が参加しやすい活動の基盤整備）**
昼下がりの柔らかい光の中、峠の麓にあるレストランの厨房からは心地よい音が聞こえていた。エプロン姿で笑顔を向けてくれたのは、水田さん。ジビエをはじめ、地域の食材をふんだんに使ったメニューを丁寧に仕込みながら、
「今日はキッチンカーのお客さんが来てくれたんですよ」
と話す。水田さんは、未来会議のメンバーの一人でもある。現場に立つ視点で、利用者の動きやニーズを共有し、地域の周遊づくりをともに考えてきた。**（特産品や食コンテンツの開発）**
ほんの短い会話だが、彼女の言葉には、この地域の未来を支える“静かな自信”が宿っている。多くの地域の事業者との連携が広がったのは、こうした現場の声がつながり合ってきたからだ。**（3-2協働で運営する体制づくり）**

夕方。
菜の花台の風が少し冷たくなり、空の色がオレンジから群青に変わろうとしていた。
展望台のひとつのベンチに、ひとりの女性が腰かけていた。
その顔には、今日一日の小さな達成感と、ほんの少しの緊張が残っている。
三人の子を育てながら、

「自分もこの地域の役に立ちたい」
と願って挑戦した試験に合格し、この春からOMOTANガイドとして歩き始めたばかりの女性
——森里さんだ。
今日は先輩ガイドの林さんのレクチャーを受け、初めて自分の言葉で案内をしてみた。
と頬を赤らめたあと、菜の花台の風景をゆっくりと見渡した。
ふた月に一度、家族の理解と子どもたちの応援を背に感じながら、“自分にできること”を積み重ねている。**(2-4ガイド人材の積極的な活用)**
その姿は、ヤビツ峠が少しずつ変わってきた道のりと重なって見えた。
派手な変革ではない。
しかし、誰かの想いと行動が静かに積み重なり、確かな温度となって峠を満たしていく。森里さんは、ポケットからスマートフォンを取り出し、沈みゆく空を背景に、菜の花台の景色を一枚撮った。
「今日の峠も、やっぱり優しかった——。」
その投稿にはすぐに
「行ってみたい」「また会いましょう」
という声が集まり始めた。

——やっぱりここは、

自然と歴史がいきづく　自分らしさに出会える場所。

その言葉は、今日の峠を歩いたすべての人の中で、そっと息づいていた。

第１章　計画の改定に当たって

１　計画改定の趣旨

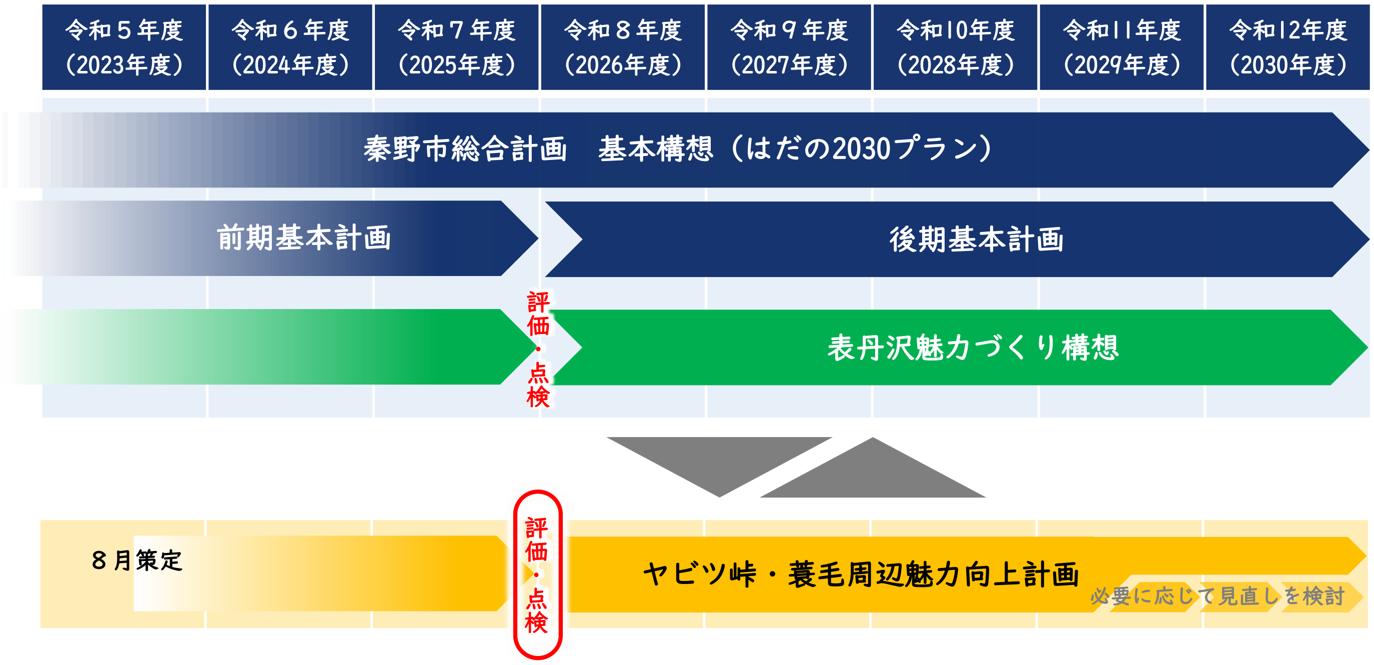
本市は、新東名高速道路の開通により、首都圏などからのアクセスがさらに向上することを生かし、表丹沢に点在する様々な分野の資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やすことで、一層の魅力向上を目指すため、令和２年９月に「表丹沢魅力づくり構想（以下「構想」という。）」を策定しました。（令和８年３月に改定）

構想では、５つの基本方針と４５の取組事例、さらには、表丹沢エリアを東西と中央の３つのエリアに分けたエリア別の方向性を示し、「本物の魅力」が見つかる表丹沢の実現を目指しています。

そこで、表丹沢東エリアの「県道７０号沿いを中心としたヤビツ峠・蓑毛周辺」を対象に、表丹沢の豊かな自然の保護と利用の好循環、さらには、エリアに点在する様々な資源の活用による持続可能な地域を創出するため、令和５年８月に「ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画（以下「本計画」という。）」を策定し、構想に即した改定を行いました。

２　計画の位置付けと期間

本計画は、構想のアクションプランとして位置付けます。また、「秦野市総合計画」等の上位計画をはじめ、「秦野市観光振興基本計画」など、各種関連計画との整合を図るとともに、丹沢大山国定公園に関する施策やＳＤＧｓの理念等を踏まえた具体的な施策を明らかにすることにより、ヤビツ峠・蓑毛周辺エリアの課題解決に向けた取組を推進するものです。



また、公的主体である行政と民間主体である市民や関係事業者等の幅広い関係者が、地域の課題やその解決に向けた施策の方向性など、共通のビジョンを共有しながら、総合的に取り組むことを目指します。具体的には、「自然や歴史文化資源を保全・再生し、その魅力を来訪者に体験してもらう取組」、「来訪者と地域が長く結びつくための取組」、「地域と来訪者をつなぐ活動体の形成・充実を目指す取組」など、それぞれの立場から検討を行い、公民連携による地域づくりを進める計画として位置付けます。

本計画の期間は、構想と合わせた令和12年度(2030年度)末までとしますが、施策の進行状況や社会情勢の変化などに鑑み、必要に応じた見直し（発展的解消を含む。）を行います。

3　計画の対象エリア

対象は、表丹沢東エリア「ヤビツ峠・蓑毛周辺（以下「本エリア」という。）」とし、本市の新たな玄関口となる新東名高速道路の秦野丹沢スマートＩＣ周辺や、小田急線秦野駅などを中心とした市街地、隣接する市町村等とも連携を図りながら推進していきます。

【特性】

本エリアは、かつて大山詣りへの人々を案内する御師※1（おし）の里として栄えた蓑毛の御師集落や鎌倉幕府３代将軍の源実朝公御首塚（みしるしづか）など、多くの歴史的な文化遺産が点在しています。

また、市街地から清川村方面へ走る県道７０号沿いにあるヤビツ峠は、塔ノ岳や三ノ塔、大山等の登山口であるとともに、ヒルクライム※2の聖地となっており、途中にある菜の花台園地は、市街地から相模湾まで一望できる景観スポットとしても有名です。

さらに、春嶽湧水・護摩屋敷の水等の湧水や山間の風景に溶け込むように広がる棚田等の豊かな自然があるエリアです。

【方向性】

「地域活動が生む交流のエリア」として、活動団体が中心となり、地域の特性によって異なる体験を通じ、市民や来訪者等の交流が期待されています。

そこで、主体ごとに特性の異なる活動を充実させるとともに、それらの活動を支える基盤を整えるため、本計画を策定し、地域活動や交流を促進しながら、新たなサービスの開発や施設利便性の向上などにつなげていきます。また、隣接する伊勢原市、厚木市（大山エリア）や清川村と連携し、広域的な魅力向上を図っていきます。

方向性１　活発な地域活動と交流の促進

(1)　活動を支える基盤づくり

地域活動拠点である田原ふるさと公園では、地域が主体となった持続的な運営を実現していくため、地域住民とともに、魅力向上に向けた施設再整備の在り方の検討を進めていきます。

また、県や警察と連携を図りながら、県道７０号の効果的な道路環境の整備について研究するとともに、各拠点を中心に、サイクリングマナーや安全登山に向けた啓発活動により、誰もが安全・安心で快適に活動できる環境づくりにつなげていきます。

(2)　地域の特性によって異なる体験

自然体験拠点であるヤビツ峠レストハウスでは、活動団体と連携を図りながら、ニーズに応じた様々な体験の提供やアウトドアスポーツグッズのレンタル等を行うなど、山岳・里山アクティビティの活動拠点として機能充実を図っていきます。

また、菜の花台園地では、県と連携しながら、施設の適切な維持管理を図るとともに、民間活力を生かした取組を進め、安全で快適な休憩スポットしての魅力向上を推進していきます。

さらに、ゆっくりと森を楽しむことができる森林セラピーロードのほか、大日堂や緑水庵等の歴史・文化遺産など、地域固有の資源を活用した市民や活動団体による体験を提供するとともに、各拠点での効果的な情報発信を支援していきます。

方向性２　広域的な魅力向上

(1)　伊勢原市、厚木市（大山エリア）との連携

伊勢原市、厚木市とは、観光等の情報発信を相互に行うとともに、歴史的・地理的につながりが深い大山との連携を図り、回遊性を高めます。

(2)　清川村との連携

清川村とは、観光等の情報発信を相互に行い、県道７０号でつながる宮ヶ瀬エリア等との回遊性を高めます。

(3)　県央やまなみエリア（厚木市、伊勢原市、愛川町、清川村）の連携

神奈川県から「かながわ観光連携エリア」に選定された本エリアと新たな価値づくり、情報発信に連携して取り組みます。

1 御師：神社に属し、参詣者の案内や宿泊を業とした者
2 ヒルクライム：峠や山道の決められたコースを、ロードバイクを中心としたスポーツバイクで登る競技もしくは乗り方

第２章　ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境

１　地域の特徴と主な資源

【より詳細な項目については「表丹沢魅力づくり構想（令和８年度版）」をご参照ください】

(1)　豊かな自然環境

ア　立地環境の多様性が支える地域資源の価値

本エリアは、そのほとんどが丹沢大山国定公園に指定されており、表丹沢の中でもとりわけ多様で豊かな自然環境が濃縮されています。標高差が生み出す気候の変化と、人々の暮らしが息づく里地里山が隣り合うことで、深い森から清流や農地、集落風景まで立体的な自然環境が広がっています。また、ニホンジカやカモシカなどの大型哺乳類のほか、オオルリなどの夏鳥やクマタカなどの猛禽類も棲息するなど、多くの生き物が命を育んでいます。

エリアの南側の蓑毛周辺には、棚田や茶畑、雑木林が「人と自然の共生景観」を織りなし、里地里山ならではの多様な生き物や、伝統的な暮らしの営みが残されています。

これらは、単なる風景としてだけでなく、水源かん養、生態系保全といった多面的な機能を担いながら、地域全体の環境価値を高めるとともに、貴重な資源として、ひいてはアイデンティティとして、未来に受け継ぐ財産となっています。

オオルリ（提供：はだの野鳥の会）

イ　自然の息づかいを感じる雄大な眺めと美しい景観

本エリアには、三ノ塔や大山などの標高１２００ｍ級の山々のほか、菜の花台園地や菩提峠など、眺望に優れた場所が多くあり、東には広大な関東平野、南面眼下には太平洋、西には富士山と大パノラマの雄大な景色を、そして、四季ごとに移ろう色彩豊かな自然美を望むことができます。特に、菜の花台園地からの朝日や夕焼け、夜景を一目見ようと多くの観光客が訪れています。

また、ミツマタの群生地や日本三大桜の一つである淡墨桜などの桜、宝蓮寺周辺や緑水庵などの紅葉のほか、かながわの美林５０選に選ばれる「諸戸山林のスギ・ヒノキ林」や「龍口入（たつのくちいり）のスギ林と自然観察の森」など、自然豊かな美しい景観を楽しむことができます。

淡墨桜と菜の花

(2)　多様なアクティビティ

ア　多彩なニーズに応える登山スポット

表丹沢は、初心者から経験者まで幅広い層が安全に楽しめる登山ルートが整備されており、かつ登山口へのアクセスが比較的優れていることから、南関東では有数の登山スポットとして、東京や横浜等の首都圏から毎年多くの登山客が訪れ、まさにヤビツ峠と蓑毛はその登山口になっています。

イ　サイクリストやトレイルランナーを多方面から魅了する“ヤビツ峠”

国道２４６号からヤビツ峠をつなぐ県道７０号は、その急峻な地形から、ロードバイク等の自転車で坂を上るスポーツであるヒルクライムの名所として、多くのサイクリストで賑わっています。実際に、県道７０号や林道（桜沢・羽根等）を活用した競技イベントやヒルクライム教室のコースとして利用されています。

加えて、近年では、トレイルランニングや峠走（とうげそう）といった、新たなアクティビティ利用も増えています。

ヤビツ峠　ヒルクライム教室（羽根林道）

このほか、利用者らによる県道７０号の清掃活動が定期的に行われるなど、安全面と環境に配慮したアクティビティ文化が醸成されつつあります。こうした活動は、地域の自然環境の特性と共鳴し、持続可能な利用形態として、観光・交流促進と環境保全の両立に資するものとして位置付けることができます。

ウ　本格的なアウトドア体験

「青山荘」や「ボスコオートキャンプベース」、「みのげマス釣りセンター」では、キャンプやバーベキュー、渓流釣りなど、豊かな自然を生かした本格的なアウトドアを体験することができます。

また、「蓑毛ベリー園」では、イチゴ狩りなども楽しめるため、近隣の市町村や民間ツアー会社とのタイアップイベント等を企画することで、回遊性の向上や滞在時間の延長が期待されます。

ボスコオートキャンプベース

(3)　受け継がれる歴史文化

大山の登山口にあり、山岳信仰の拠点としての歴史がある蓑毛周辺には、国の登録有形文化財である「蓑毛大日堂（他３棟）」や、県指定重要文化財である「木造大日如来坐像」と市指定重要文化財である４体の如来から構成される「木造五智如来坐像」のほか、「木造聖観音菩薩立像」、「木造二王立像」、「木造十王像」など、多くの歴史的価値のある文化財が存在します。

同じく、国登録有形文化財である「旧芦川家住宅主屋（通称：緑水庵）」は、昭和５年(1930年)に、本市今泉に建築された葉たばこ農家の典型的住宅を移築したもので、竹の産地であった秦野らしく、割竹を張った壁が特徴の展示・学習施設として、蓑毛地区の山村風景とよく調和しています。

また、江戸時代には、庶民の間で大山信仰と娯楽を兼ねた大山詣りの人々でにぎわい、その麓のまちであった蓑毛は、大山に参詣する人を案内し、宿泊させる「御師の集落」として発展してきました。

現在でも、当時の道標や鳥居等が残っており、本エリアを象徴し、かつ当時の様子をしのばせる重要な建造物となっています。

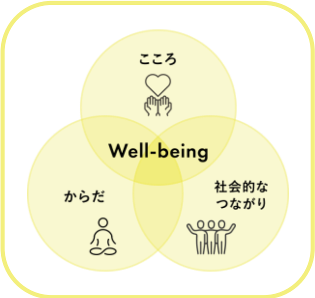
小蓑毛の鳥居

２　社会潮流と地域の課題

（１）　社会潮流

ア　ウェルビーイング志向と自然回帰ニーズの高まり

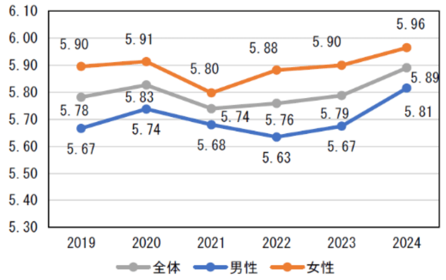
近年の観光ニーズの中で、あらゆる場面での「心身の健康＝ウェルビーイング」を重視する「整う旅」の需要が一層高まっています。特に、自然の中で静かに過ごす滞在や歩くことによるリフレッシュが評価され、森林浴・里山散策・低強度の登山など、自然と触れ合う過ごし方が幅広い年代に支持されています。



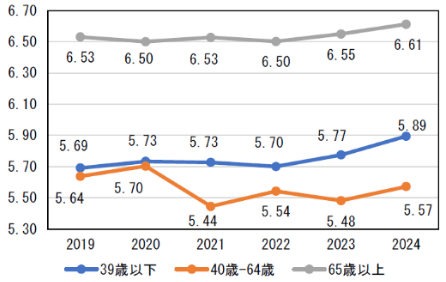
これは、本エリアが有する豊かな森林環境、四季の変化が感じられる登山道、静けさのある里地里山環境と高い親和性を持ち、既存のハイキングルートや自然観察、里山散策の価値向上につながります。

また、近場において心身を整える「マイクロツーリズム」等の定着は、都市近郊というアクセス性の高い本エリアにとって大きな追い風となっています。

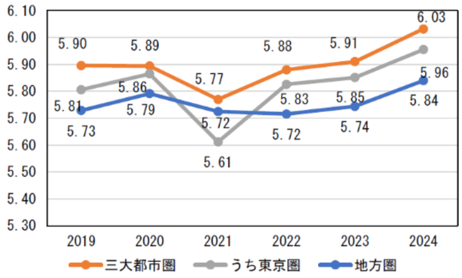
図表１－１　生活満足度の推移（男女別）



図表１－２　生活満足度の推移（年齢階層別）



図表１－３　生活満足度の推移（地域別）



＊すべて単位は「点」（0～10点で自己評価する主観的な生活満足度）

出典：内閣府「満足度・生活の質に関する調査報告書2024」

イ　イミ消費と地域ストーリーへの共感

消費者の価値観は、この20年で「モノ消費」から体験を重視する「コト消費」へ、さらに、その瞬間の特別さを求める「トキ消費」へと大きく変化してきました。今後はその進化の先にある「イミ消費（意味のある消費）」が主流となり、“自分がなぜこの地域を選ぶのか”といった内面的価値を重視する傾向が強まりそうです。

本エリアには、大山信仰に由来する古道、里地里山の営み、地域の自然と共生する暮らしなど、他地域と代替できない独自のストーリーが存在します。ガイドによる案内、里山文化に触れる学習体験、ボランティア活動の見える化などは、単なる「体験提供」に留まらず、来訪者が地域の価値に共感し、“参加者”として関われる仕組みとなるため、こうしたストーリーの提示は選ばれる地域としての可能性を高める重要な取組です。

ウ　次世代型ツーリズムへの転換

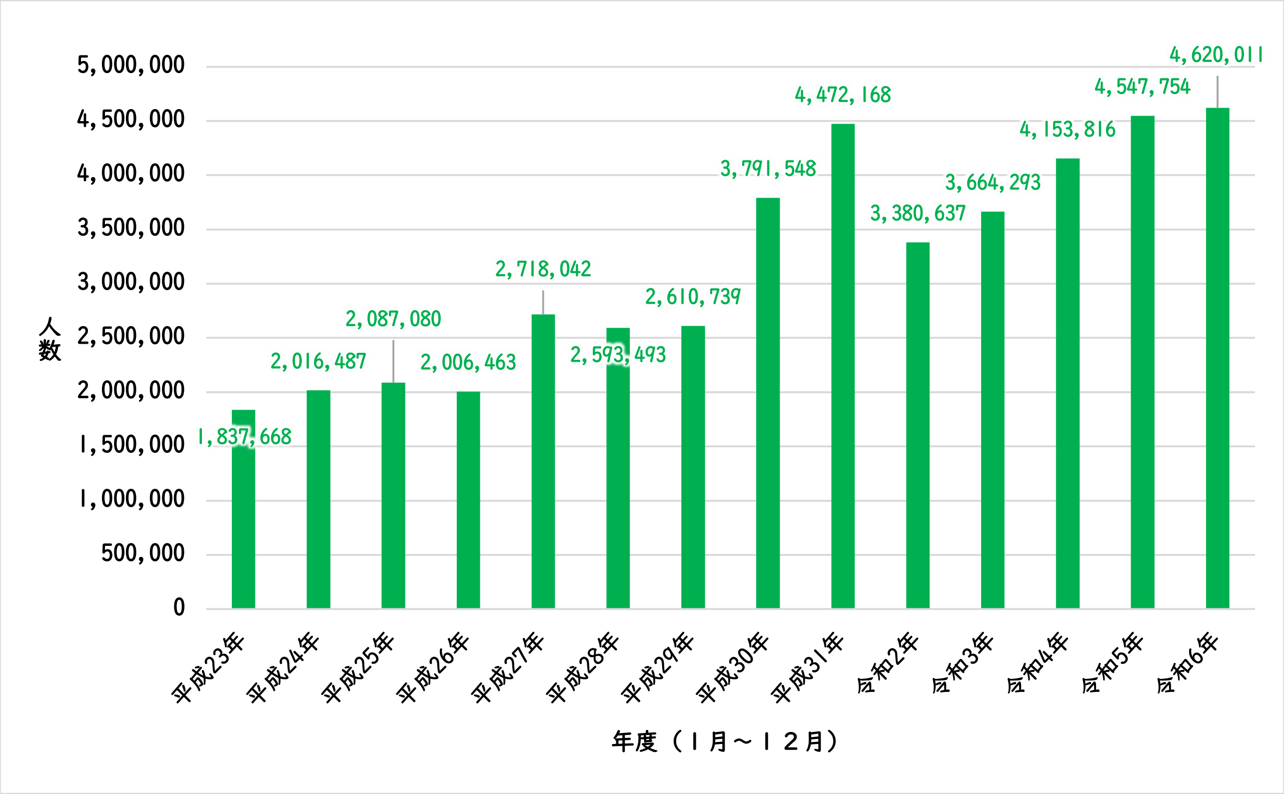
環境配慮を前提としたサステナブル・ツーリズムや、体と心が社会的に健康な状態を創り出す手段を内包したウェルネス・ツーリズムに加え、旅行自然の中で心身の健康を高めるヘルスツーリズム、さらには、地域の自然や文化を“より良い状態へ再生する”リジェネラティブ※3ツーリズムが重要性を増しています。国も、持続可能な観光地経営、適正利用、地域共生、健康増進と観光の連携強化を重点政策として掲げており、環境保全と観光の両立は、全国的な政策潮流となっています。

本エリアでは、森林浴や登山による健康価値の享受、公共交通利用の促進、ボランティア清掃や里地里山保全への参加など、来訪者の行動が地域の健全性を高める仕組みとして既に形成されており、これらの取組を可視化、体系化することで、国の方針に沿った持続可能な再生型観光地としての評価をさらに高めることができます。

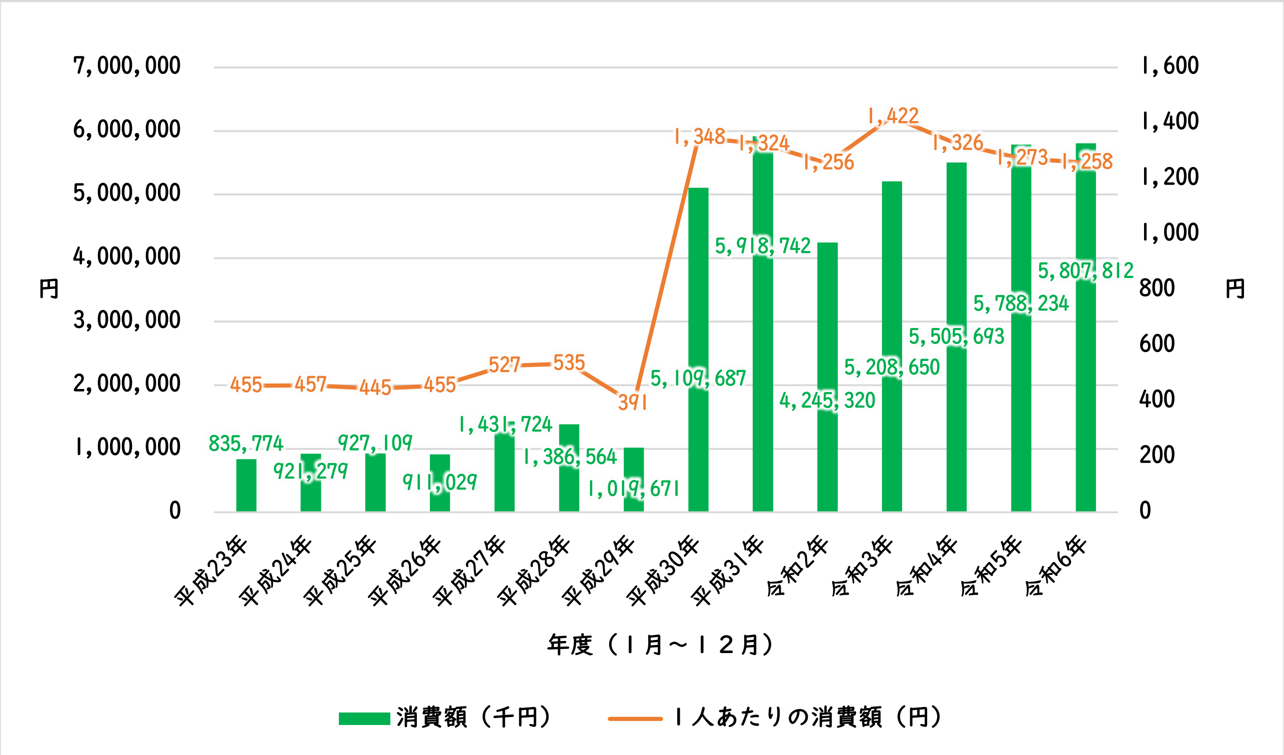
[3] リジェネラティブ：環境を取り巻く根本的な課題を解消しながら、環境の再生や改善を目指す考え方

エ　本市の観光動向

①入込観光客数の推移



②観光消費額の推移



(2) 地域の課題

ア “ヤビツらしさ”を形にする体験と特産品の磨き上げ

本エリアには、自然や歴史に加え、登山やサイクリング、さらには、トレイルランニングやヒルクライムなど、地域資源を生かした魅力あるアクティビティが創出される一方で、それらが地域らしい体験として一体的に伝わる仕組みが整っていないことが課題です。

これらの体験が通過型であることを加味しても、そのコンテンツや特産品の存在が地域全体のストーリーとして共有されていないため、初めて訪れる人にその魅力が伝わらず、ひいては、事業者個々の努力や知恵なども認識されにくい環境となり、消費拡大や地域価値の向上を阻む要因となっています。

今後は、地域資源を束ねた共通ストーリーを明確にし、統一的で参加しやすい体験や特産品の磨き上げ（＝リデザイン）を行うことが必要です。

イ 安心して楽しめる“地域の体験拠点”づくり

各種の施設整備が進み、登山者やサイクリスト、家族連れなど、利用者の幅が広がる中、案内・休憩・体験の機能が地域内に分散しているため、「どこで、何ができるか」が分かりにくいことが課題です。

また、宿泊施設の不足はもとより、施設の老朽化や衛生・防災・バリアフリー機能の不足は、安心して滞在する上での障壁となり、結果として、滞在時間や回遊に係る不満を生じさせます。

そこで、施設利用者からの満足度を調査するとともに、既存施設の更新に加え、空き家や遊休資産の活用も視野に、誰もが安全で快適に過ごせる回遊環境を整える必要があります。

ウ ストレスなく巡ることができる“ヤビツ峠の移動と回遊”の改善

秦野駅からヤビツ峠へ向かう路線バスは、土休日に混雑し、平日は利用が少ないという需要の偏りが続き、また、単線峠道や運転士不足の影響もあり、増便はおろか、減便を余儀なくされている状況です。

さらに、ヤビツ峠と市街地をつなぐ手段が限られているため、バス、タクシー、自転車、徒歩などを組み合わせた“二次交通※4”がうまく機能しておらず、回遊や周遊観光につながりにくいことが最大の課題です。

こうした状況から、交通状況の見える化や道路の安全対策を並行して進めるとともに、バスやタクシー、自転車、徒歩などの二次交通を組み合わせて、ストレスを感じずに巡ることができる回遊ルートの形成が必要です。

エ 地域を未来へつなぐ“新たな担い手”の場づくり

本エリアでは、菜の花台園地でのキッチンカー事業をはじめ、若手世代の参入が増え、地域の新しい活力が生まれています。しかし、こうした前向きな動きが地域全体の力として最大化されるためには、市民や事業者・地域団体、行政が情報を共有し、互いの活動や役割分担を理解し、明確化させることが重要です。

個々の取組が魅力的であっても、横のつながりが希薄なことで、イベントや体験づくり、あるいは情報発信など、協働による相乗効果が生まれにくい状況となる可能性があります。

そのため、若手を含む多様な担い手が協力し合える場づくりや、情報共有体制を整え、地域の力を面として高めていくことが必要です。

[4] 二次交通：拠点となる空港や鉄道駅から、観光等の目的地まで行くための交通手段

オ　また訪れたくなる“分かりやすい情報と発信力”の強化

本エリアを含む表丹沢全体では、「表丹沢総合ホームページ」や「OMOTAN公式Instagram」等の開設により、地域の情報をまとめて確認できるプラットフォームが整備され、道路状況や魅力スポットなどの情報整理ができていることから、引き続き市民や来訪者が真に知りたいタイミングで必要な情報を届けることが重要です。

また、情報発信が「案内」にとどまることなく、再来訪を促すようなストーリー性や継続的な仕掛けを日々講じることは、本エリアのファンづくりにおいては、更なる伸びしろがあります。

そのため、本プラットフォームを適時適切に運用できる体制を充実させ、季節の魅力や地域の動きを伝える仕掛けの強化、さらには、注意喚起（気候の変化や有害鳥獣等の発生など）にも配慮するなど、再来訪を促す発信へ発展させることが必要です。

表丹沢総合ホームページ「OMOTAN」

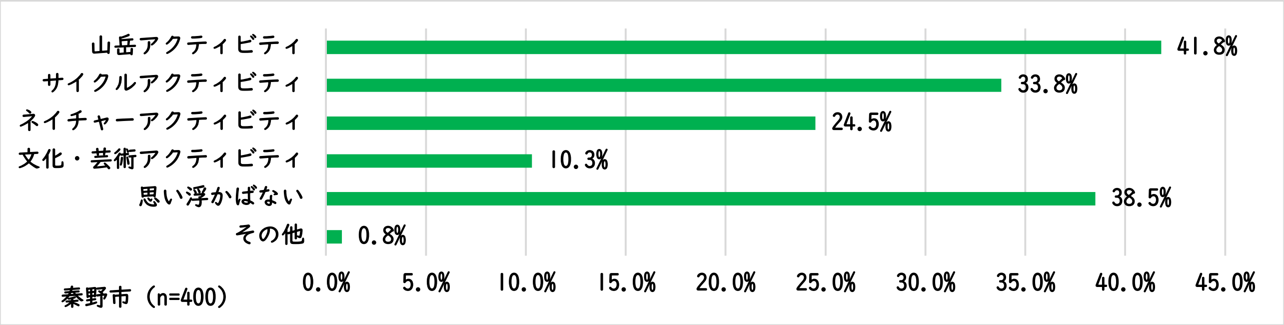
OMOTAN公式Instagram

フォロワー数10,000人を突破（令和６年度）

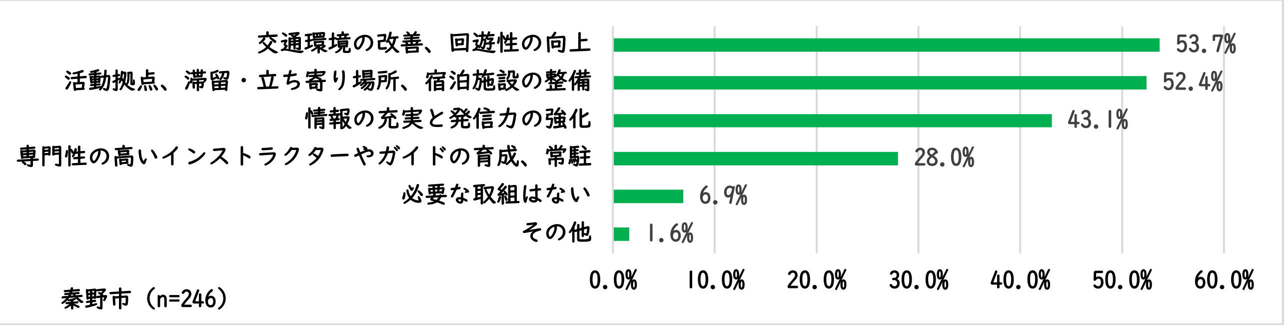
３　各種アンケート調査

(1)　秦野市Ｗｅｂアンケート（対象期間：令和7年9月29日～同年10月9日）

ア　ヤビツ峠・蓑毛周辺らしい体験コンテンツとして思い浮かぶもの



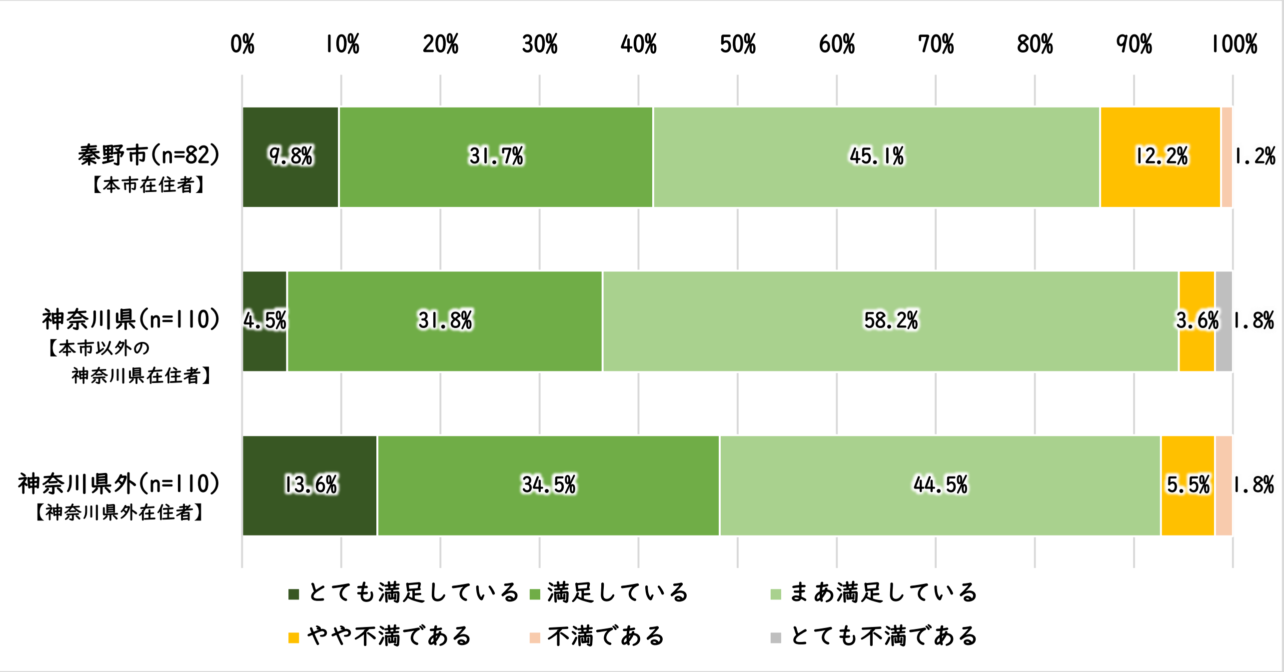
イ　上記「ア」で選択したコンテンツを更に充実させるために必要だと思う取組（「思い浮かばない」を除く。）



(2)　層化抽出[※5]アンケート（対象期間：令和7年1月28日～同年2月3日）

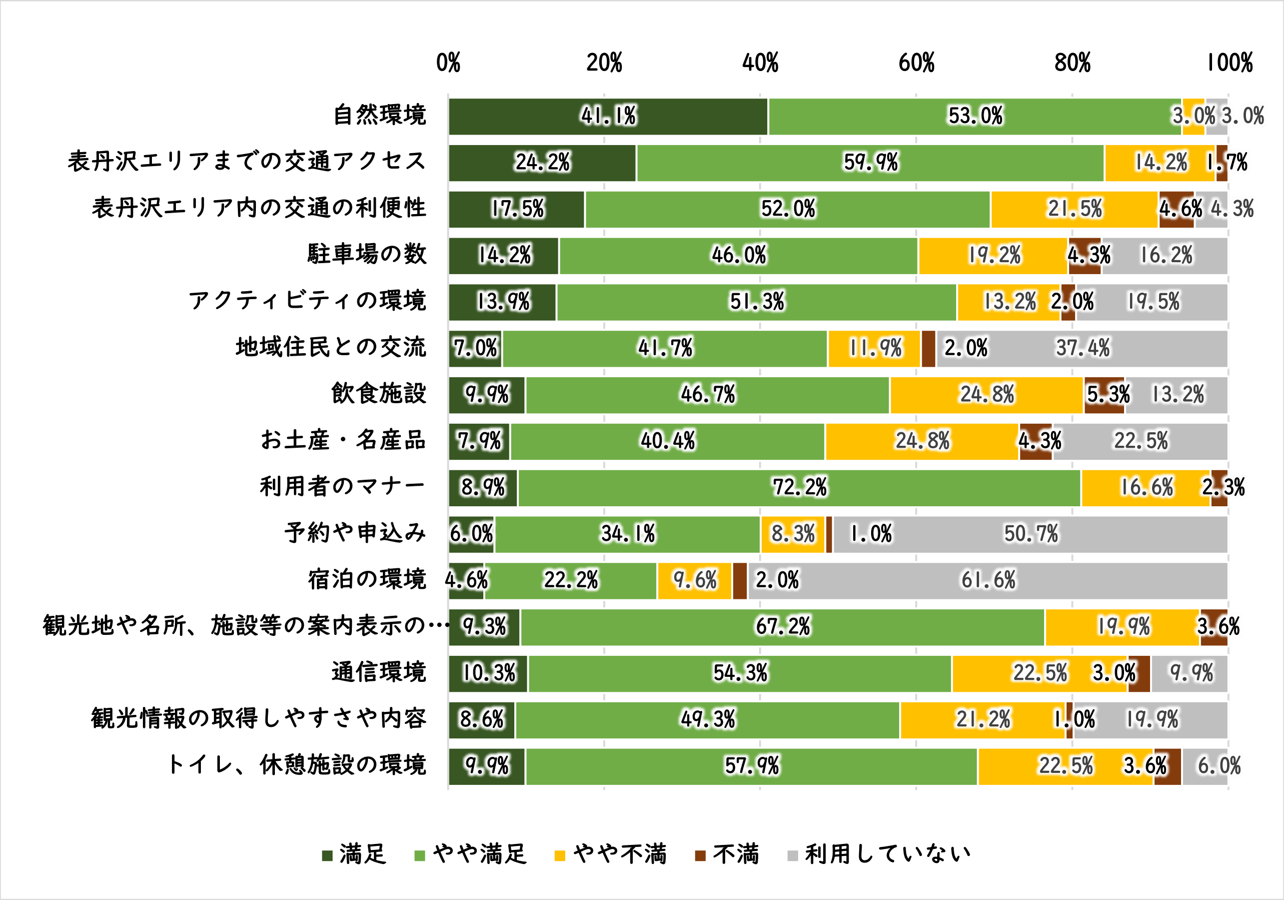
表丹沢エリアで過ごした人の実態及びニーズを把握するとともに、表丹沢魅力づくり構想の推進による効果の把握を目的として、対象期間に表丹沢エリアに滞在した人を抽出しました。

ア　表丹沢エリアでの滞在に対する全体的な満足度

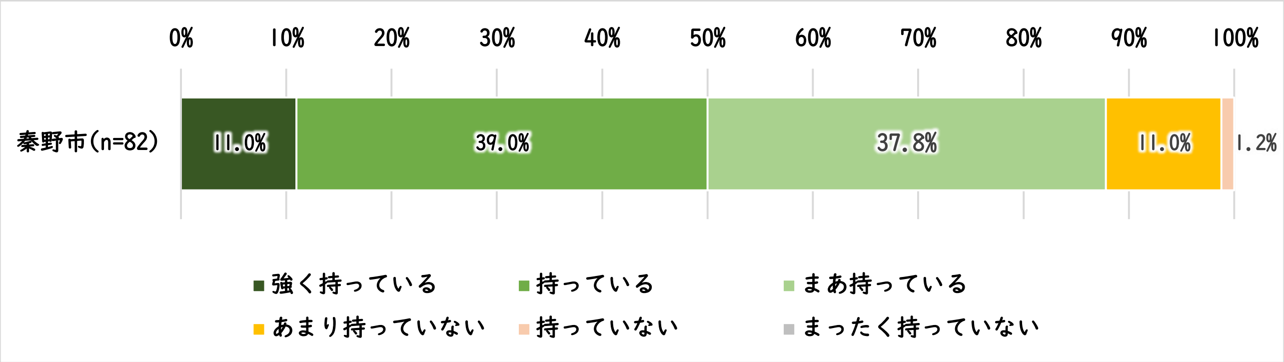


5 層化抽出(法)：母集団（性別や年代など）を特定の特性で層に分け、各層から無作為にサンプルを抽出する標本調査の手法

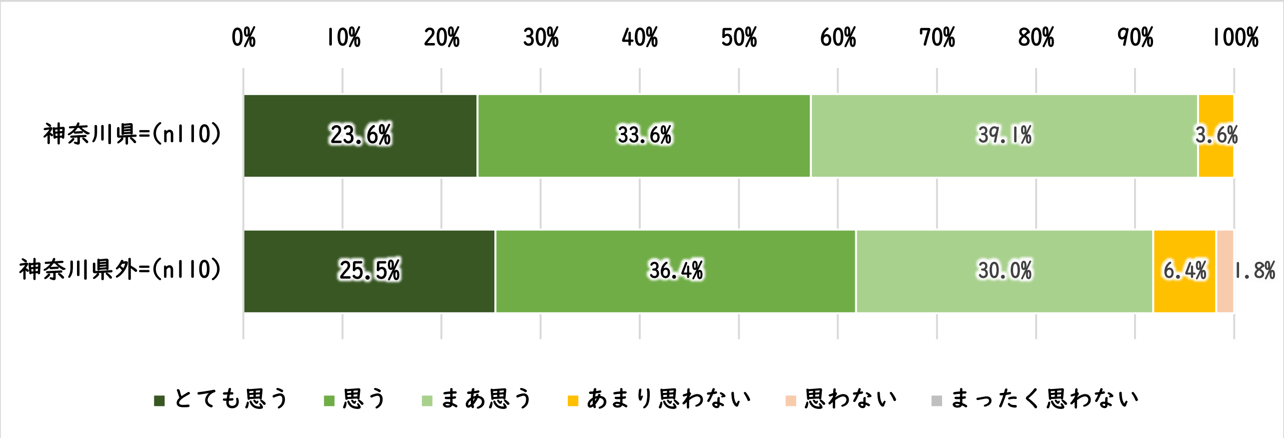
イ　項目別満足度



ウ　表丹沢エリアへの誇り（シビックプライド）



エ　表丹沢エリアへの再来訪意向（２度、３度の来訪意向）



14

４　前計画の評価

本計画は、令和５年８月に新規に策定し、コンセプトである「自然と歴史文化がいきづく　自分らしさに出会える場所」を実現するため、計画に掲げた「５つの基本方針」に基づく「１５の個別施策」に取り組んできました。

計画の改定に当たり、個別施策に関係する庁内各課においては、進行管理シートの作成を義務付ける中でのヒアリングを、また、関係事業者においても、会議体による意見交換の場を設け、各主体が進める施策の進捗の整理と評価を行いました。

(1)　実績と評価（令和６年度）※次ページに記載。

No.	基本方針	項目	個別施策
1	地域資源を活用した新たなサービスの造成	施策１	滞在型コンテンツの造成
		施策２	林道を活用したイベントの充実
		施策３	特産品や食コンテンツの開発
2	滞在環境の魅力の向上	施策１	滞在拠点の整備・充実 ①緑水庵・蓑毛自然観察の森の整備・活用
			滞在拠点の整備・充実 ②菜の花台園地の休憩施設としての魅力向上
			滞在拠点の整備・充実 ③来訪者の満足度を高める取組
		施策２	トイレ環境の充実
		施策３	眺望・景観の整備
		施策４	遊休資産の活用と鳥獣被害対策
3	交通ネットワークの充実	施策１	レンタサイクルの検討
		施策２	周遊型交通サービス等の検討
		施策３	道路環境の充実
4	人を起点とした魅力づくり	施策１	包括的な推進体制の構築
		施策２	ガイド人材の育成講座の実施
		施策３	地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり
5	情報発信の充実	施策１	観光情報等の充実
		施策２	マナー等の情報発信の充実

【数値目標達成状況の評価区分】Ａ：達成率100％以上／Ｂ：75％以上100％未満／Ｃ：50％以上75％未満／Ｄ：50％未満

概ね計画どおりに施策が展開されています。

区分	数値目標実績評価	総合的な自己評価
Ａの項目数	14（82%）	10（59%）
Ｂの項目数	1（6%）	5（29%）
Ｃの項目数	0（0%）	1（6%）
Ｄの項目数	1（6%）	1（6%）
R6数値目標なし または、自己評価できず	1（6%）	0（0%）

指標（KPI）	数値目標	数値実績	達成率	数値目標実績評価	総合的な自己評価
新たな滞在型コンテンツの参加者数（年間）	50	363	726%	A	A
林道を活用したイベントの開催回数（年間）	10	23	230%	A	A
開発した特産品や食コンテンツの数	1	4	400%	A	A
緑水庵の年間利用者数	1,700	2,019	119%	A	A
滞在拠点の魅力向上に向けた写真スポットや散策路等の整備数（年間）	1	1	100%	A	B
公共施設へのサイクルラックの設置箇所数（累計）	4	12	300%	A	A
ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度（①におい、②清潔さ、③明るさ）	全て80%	①70% ②92% ③92%	（108%）	（A）	B
修景に配慮した森林整備を実施したエリア数	2	2	100%	A	A
環境整備や遊休資産を活用したイベントの実施回数（年間）	3	4	133%	A	B
レンタサイクルの拠点数（累計）	－	－	0%	－	B
周遊交通サービス運行台数	1	0	0%	D	D
ボランティアによる県道７０号の清掃活動の実施回数（年間）	5	4	80%	B	A
推進主体組織「ヤビツ峠・蓑毛未来会議」の参加人数	15	17	113%	A	A
認定ガイド数（累計）	8	11	138%	A	A
地域内外との連携で新たに実施する事業数（年間）	1	1	100%	A	C
エリア内に関連したPR動画の再生回数（累計）	29万回	69.3万回	239%	A	B
啓発イベント等の開催数（年間）	3	5	167%	A	A

【自己評価の区分（５段階）】Ａ：順調に進んでいる／Ｂ：概ね順調に進んでいる／Ｃ：やや遅れている／Ｄ：遅れている

第３章　ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿

１　地域のポテンシャル

ここでは、第２章「ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境」を整理し、本エリアの現状を明らかにするとともに、提供できる価値・体験の磨き上げにつながるポテンシャルについて、強み（Strength）・弱み（Weakness）・機会（Opportunity）・脅威（Threat）の分析軸を用い、戦略の方向性を示します。

（１）　分析結果

プラス要因

S　強み

- **豊かな自然環境と多彩な景観**
  丹沢の自然がもたらす四季の変化、名水や森林、峠といった高い没入性（五感に訴える体験）
- **歴史文化の奥行き**
  蓑毛周辺に残る行者文化や信仰登山の歴史、地域の日常に根づく文化的背景
- **確立された「ヤビツ」ブランド**
  ヒルクライムの聖地としての高い認知度、熱心なリピーター層の存在
- **新規（若手）参入による新しい活力**
  キッチンカー事業などの新規参入の増加、多様な人材と視点が地域にもたらされている
- **情報プラットフォームの整備**
  スポット情報等が整理され、基盤としての情報提供体制が充実

O　機会

- **ウェルビーイング志向の高まり**
  自然の中で心身を整える体験価値のニーズが拡大
- **地域固有性を求める社会潮流**
  その地域でしかできない体験が評価される時代へ
- **多様な人材の参画機会拡大**
  地域外からの起業・協働・ボランティア参加が活性化しやすい社会的潮流
- **デジタル発信の標準化**
  SNSなどを通じ、地域発信の影響力を高めやすい環境が整っている

内的要因　　外的要因

W　弱み

- **魅力をまとめる“総合的なストーリー”不足**
  自然・歴史・体験が点で存在し、地域全体の一体感が伝わりにくい
- **体験拠点や案内機能の分散**
  休憩・案内・体験の導線がわかりにくく、滞在・回遊が不便
- **二次交通の機能が不十分**
  バス需要の偏在などが回遊性の阻害要因となっている
- **担い手間の連携不足**
  新規（若手）参入は進む一方、事業者・団体・行政の横のつながりが弱く、協働効果が限定的
- **情報発信の“運用力”課題**
  プラットフォームはあるが、魅力訴求が最適化されておらず、再来訪を促す仕掛けが不十分

T　脅威

- **交通の脆弱性（需要偏在・人材不足）**
  土休日混雑・平日低稼働、運転士不足など、交通サービスが不安定化する可能性
- **自然災害・気象リスクの増大**
  山岳道路の災害、倒木、土砂リスクの高まり
- **利用増加に伴う環境負荷**
  オーバーツーリズムによる登山道・道路・植生などへの負荷が増し、維持管理コストも増大
- **有害鳥獣被害・ヤマビル被害**
  気候変動による生息環境の変化、被害の顕在化（ハイキングやトレイルといった利用形態の変化）

マイナス要因

（2） 戦略の方向性

ア　強みと機会を掛け合わせ、価値を広げる【Ｓ×Ｏ＝地域価値の最大化】

自然・歴史文化・ヒルクライムのブランド力や新規（若手）の参入などの強み(Ｓ)を基盤に、ウェルビーイング志向や体験価値を重視する外部環境の機会(Ｏ)を掛け合わせ、地域の魅力を最大化します。資源をストーリーとして編集し、強みを磨き、機会を逃さないことで、“選ばれ続ける地域”へと成長させます。

イ　弱みと脅威を掛け合わせ、損失を防ぐ【Ｗ×Ｔ＝リスクの最小化による価値保全】

総合的なストーリー性の欠如や二次交通の機能不足といった弱み(Ｗ)に対し、オーバーツーリズムといった環境負荷などの外部脅威(Ｔ)を掛け合わせ、損失を最小限に抑える環境づくりを進めます。安全でシームレスな回遊環境による受入体制を整えることで、地域の魅力が損なわれない“安定した価値”を維持し、安心して訪れられる地域を実現します。

2　計画のコンセプト

本エリアのポテンシャル（SWOT分析※6を参照）を最大限に生かし、更なる魅力を向上させていくため、前計画のコンセプトを引き継ぐこととします。

自然と歴史文化がいきづく
自分らしさに出会える場所

本エリアを「自然と歴史文化がいきづく自分らしさに出会える場所」として育んでいくためには、地域に息づく自然や歴史文化を、個々の資源としてだけではなく、訪れる人の“体験価値”として再構成していく視点が求められます。地域の魅力を一貫したストーリーとして束ねることで、訪れる人は地域の息づかいや時間の流れに触れ、自分の感性による過ごし方を選択することができます。
こうしたアプローチは、全国的な社会潮流である“地域固有性の尊重”や“深い体験への志向”、さらには、心身の豊かさを重視する“ウェルビーイング”の概念とも調和し、地域の価値を未来へと引き継ぐ礎となるものです。

この価値を持続的な体験へとつなぐためには、地域全体を安定して巡り、安心して滞在できる環境づくりが欠かせません。拠点機能や交通、情報が適切に結びつき、地域全体を一つの空間として捉えられるような“流れ”を形成することで、訪れる人はより自由に、より深く、地域の魅力に向き合うことができます。
移動や案内といった基盤が整うことは、地域の持つ自然や歴史文化といった本質的価値をより純粋に感じてもらうための前提条件であり、安心・快適性と体験価値の両立がこれからの地域づくりに求められています。

さらに、地域の価値を未来へと引き継ぐためには、多様な人々が関わり合い、それぞれの視点や知恵が重なり合う“協働の仕組み”が必要です。新たな担い手の参入や既存活動の広がりは、地域の力を大きく高める可能性を秘めており、それらが連携し合い、地域全体の方向性と調和することで、地域の魅力はより深く、より立体的に育まれていきます。
また、情報発信についても、整備された基盤を適切に運用し、地域の変化や季節の息づかいを継続して伝えていくことが、訪れる人との新たな関係を生み、再来訪やファン形成につながっていきます。

こうした連続性のある取組を積み重ねることで、自然と歴史文化が息づくこの地の魅力を着実な改善と協働によって育みながら、暮らす人や訪れる人が“自分らしさに出会える場所“を目指します。

6 SWOT分析：現状分析のために使われる手法の一つ。内部要因（強み・弱み）と外部要因（機会・脅威）を掛け合わせて分析することで、方向性や改善策を洗い出し、新たな戦略を導き出すもの

３　基本方針と施策体系

（１）　施策体系の再編ポイント

前計画の『章立て型（体験造成、拠点整備、情報発信等、テーマごとの施策配置）』の体系から、来訪者の行動や地域運営の実態に即した**『一気通貫型（「訪れる☞巡る☞触れる☞また訪れる」といった連続した体験（縦の流れ）に対応）』へ再編**しました。

これは、人・組織づくりとして「ヤビツ峠・蓑毛未来会議」の設立・運営が、地域の横のつながりを生み出す重要な位置付けとなったことから、次のフェーズに求められる維持・運営・協働に即応できる推進体制の機能向上を視野に入れたものです。

本計画では、施策を「テーマごと」とするのではなく、**①周遊交通・観光の充実／②快適な体験機会の拡充／③横断的な地域連携といった、目的や価値ごとの方針に再構成し、**引き続き、本エリアがコンセプトである『自然と歴史文化がいきづく自分らしさに出会える場所』となるよう、推進していくこととします。

No.	基本方針	項目	個別施策
1	地域資源を活用した新たなサービスの造成	施策１	滞在型コンテンツの造成
		施策２	林道を活用したイベントの充実
		施策３	特産品や食コンテンツの開発
2	滞在環境の魅力の向上	施策１	滞在拠点の整備・充実 ①緑水庵・蓑毛自然観察の森の整備・活用
			滞在拠点の整備・充実 ②菜の花台園地の休憩施設としての魅力向上
			滞在拠点の整備・充実 ③来訪者の満足度を高める取組
		施策２	トイレ環境の充実
		施策３	眺望・景観の整備
		施策４	遊休資産の活用と鳥獣被害対策
3	交通ネットワークの充実	施策１	レンタサイクルの検討
		施策２	周遊型交通サービス等の検討
		施策３	道路環境の充実
4	人を起点とした魅力づくり	施策１	包括的な推進体制の構築
		施策２	ガイド人材の育成講座の実施
		施策３	地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり
5	情報発信の充実	施策１	観光情報等の充実
		施策２	マナー等の情報発信の充実

前計画

(2) ＫＰＩ（重要業績評価指標）設定の再編ポイント

これまでの評価や、現状課題を踏まえた指標、さらには、**満足度といったアウトカム指標を積極的に採用**するとともに、７つの施策区分ごとに、中心的な施策に対して１つ以上を設定しました。**⇒７施策区分１１指標**

新計画

基本方針 / 方向性 / 個別施策 ≪★：KPIが紐づくもの≫	KPI
１ 周遊交通・観光の充実	
【訪れやすさを高めるアクセス環境の充実】	
施１ 周遊型交通サービス等の検討★ 施２ 道路環境の充実	施１：周遊交通サービスを支える運転士確保に向けた協力回数
【多様な来訪者が共存できる移動環境の構築】	
施３ 眺望・景観の整備 施４ 道路環境の充実（再掲）★	施４：県道７０号利用者の満足度（①清潔感／②快適・安全性：５段階評価）
２ 快適な体験機会の拡充	
【地域の魅力を深く味わう体験機会の提供】	
施１ 滞在型コンテンツの造成 施２ 林道を活用したイベントの充実★ 施３ 特産品や食コンテンツの開発 施４ ガイド人材の積極的な活用★	施２：林道を活用したイベントの開催回数（年間） 施４：エリアをフィールドとした年間のOMOTANガイドツアーの満足度（５段階評価）
【快適に滞在できる交流・休憩拠点の整備】	
施５ 滞在拠点の整備・充実（①②③）★★ 施６ 遊休資産の多面的活用	施５：①緑水庵の利用者数（年間）／②菜の花台園地の利用満足度（５段階評価）
【安全で心地よい利用環境の拡充】	
施７ トイレ環境の充実★ 施８ 眺望・景観の整備（再掲） 施９ マナー等の情報発信の充実★	施７：ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度（①におい、②清潔さ、③明るさ） 施９：啓発イベント等の開催数（年間）
３ 横断的な地域連携	
【地域をつなぐ情報共有と発信の推進体制】	
施１ 観光情報等の充実★★ 施２ マナー等の情報発信の充実（再掲）	施１：エリア内に関連したSNS(Instagram)の発信回数／Instagram(ｽﾄｰﾘｰｽﾞ)のアンケート回答数
【協働で運営する体制づくり】	
施３ 包括的な推進体制の構築 施４ 地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり★ 施５ 観光情報等の充実（再掲）	施４：エリア内の資源を活用した魅力創出事業の提案数（年間）

4　個別施策

個別施策表の見方

方向性	【基本方針に対する個別施策全体の考え方】				
施策名称	**施策●：**				
取組内容	●●●を実施し、■■■を目指す。				
実施主体	市、市民・活動団体、民間事業者、関係自治体、神奈川県のいずれかを記載				
進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒		＊		
ＫＰＩ	●●●の満足度（５段階評価）				
	理由	KPIを設定した理由や根拠を記載			
	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	●%以上				
関連計画	秦野市●●●計画／●●●指針などを記載（※表丹沢魅力づくり構想は省略）				

⇒：検討・推進
＊：状況判断（解消を含む。）
☞概ね令和10年度を想定

基本方針１　周遊交通・観光の充実（訪れる☞巡る）

本エリアでは、アクセスの限定性や多様な利用者が交錯する動線など、来訪初期の体験に課題が残っています。これらへの着実な改善を図り、誰もが安全に訪れ、気兼ねなく巡り、自然に立ち寄れる周遊環境を整備することは、**「訪れる☞巡る」**における体験の質をも高めることにつながります。

これにより、移動の快適性と滞在のしやすさを向上させ、来訪者が景観を楽しみながら地域を巡り、回遊行動を主体的に広げていく循環を生み出していきます。

方向性	【訪れやすさを高めるアクセス環境の充実】				
施策名称	**施策１：周遊型交通サービス等の検討**				
取組内容	現在、ヤビツ峠と駅や観光施設を結ぶ交通手段が限定されていることから、周辺のにぎわい等を創出するに当たっての課題となっています。そこで、来訪者の利便性や回遊性の向上を図るため、既存の公共交通（路線バスやタクシー）のほか、観光型MaaS※7といった周遊型交通サービスなどの多様な移動形態の可能性を模索しながら、交通事業者等との連携による地域のニーズを踏まえた検討を進めます。				
実施主体	市、民間事業者				
ＫＰＩ	周遊交通サービスを支える運転士確保に向けた協力回数				
	理由	運転士不足は、本エリアだけでなく全国的な課題であり、基盤整備の観点に立ち返る必要がある。			
	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	１回	１回	１回	１回	１回
関連計画	秦野市地域公共交通計画／秦野市観光振興基本計画				

7 観光型MaaS：主に観光客に対して地域の公共交通機関や商業・観光施設など、交通以外と連携したワンストップサービスの形態の一つ

<table>
<tr><th>施策名称</th><th colspan="5">施策２：道路環境の充実</th></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">　ヤビツ峠をはじめとした観光スポットまでのアクセス道路である県道７０号は、観光客などが各スポットまで自動車で移動するほか、ヤビツ峠まで公共交通バスが走行していますが、一部区間において、幅員が狭小であることから、すれ違いが困難であるなどの課題があります。
　また、近年では多くのサイクリストに利用されていることから、走行するべき部分や各スポットまでの進行方向を、より明確かつわかりやすく周知する必要があります。
①各種看板の設置：狭小な幅員に対する注意喚起に加え、サイクリストをはじめとする来訪者向けには、観光地までの距離標や案内看板など、通行の支障に配慮した設置に係る協議を進めます。
②周辺市道の安全管理：自転車の走行環境を向上させるため、道路への土砂の流入を防ぐ土留めの設置や路側線を引き直しなどを検討します。
③清潔感・快適性の向上：道路上に積もっている土砂や道路にせり出した草木などによる転倒や接触等の交通事故を防ぐため、地域ボランティア等による定期的な清掃活動を通じて交通環境の維持に取り組むことで、「日本一きれいな峠」を目指します。</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="5">①市
②市
③市民・活動団体、民間事業者、市、神奈川県</td></tr>
<tr><td rowspan="2">進行管理</td><td>令和８年度</td><td>令和９年度</td><td>令和10年度</td><td>令和11年度</td><td>令和12年度</td></tr>
<tr><td>①・②　⇒</td><td>①・②　⇒</td><td>①・②　＊</td><td>①・②　⇒</td><td>①・②　⇒</td></tr>
<tr><td>関連計画</td><td colspan="5">―</td></tr>
</table>

基本方針１　周遊交通・観光の充実（訪れる☞巡る）

方向性【多様な来訪者が共存できる移動環境の構築】					
施策名称	施策３：眺望・景観の整備				
取組内容	県道７０号沿いは眺望に優れる地形となっていますが、現状は木々のせり出しや過度な繁茂がみられ、その魅力を十分に生かし切れていません。また、道路沿いはスギやヒノキの針葉樹などが多く、観光資源になりうる植生が少ない状況です。 そこで、菜の花台やヤビツ峠レストハウス、蓑毛自然観察の森周辺等について、修景に配慮した森林整備を実施し、眺望の改善を図ります。				
実施主体	秦野市				
進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒	⇒	＊	⇒	⇒
関連計画	秦野市森林整備計画／秦野市観光振興基本計画				

施策名称	施策４：道路環境の充実（再掲）				
取組内容	＊Ｐ２２をご参照ください。				
実施主体	①市 ②市 ③市民・活動団体、民間事業者、市、神奈川県				
ＫＰＩ	県道７０号利用者の満足度（①清潔感／②快適・安全性：５段階評価）				
	理由：・アウトカム指標は、「ヤビツ峠＝サイクリストや峠ランナーの聖地」という実態の維持・向上に整合する。 ・５段階評価は、評価の標準手法であり、サンプル数が少なくても平均値で安定した評価が可能となる。（※以降、同様の設定については省略）				
	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	③ 平均3.5以上	③ 平均3.7以上	③ 平均3.9以上	③ 平均4.1以上	③ 平均4.3以上
関連計画	―				

基本方針２　快適な体験機会の拡充（巡る☞触れる・深める）

巡りやすい動線の先で、来訪者が地域の自然・文化に深く触れられる環境づくりを進めることが、本エリアの価値向上につながります。ガイドによる深度型体験、安全で心地よい歩行・滞在環境、良好な景観の維持を重ねることで、**「巡る☞触れる・深める」**という体験の流れを強化することを目指します。

これにより、安心して自然と向き合える環境を整えることで、利用者が地域の魅力を主体的に発見し、学びや気づきを深める動きにつなげていきます。

方向性【地域の魅力を深く味わう体験機会の提供】					
施策名称	**施策１：滞在型コンテンツの造成**				
取組内容	登山やヒルクライム、トレイルランニングなどの既に親しまれているアクティビティに加え、特に、自然環境や歴史文化などの地域資源を生かし、個人や企業を対象とした地域課題に配慮した新たな滞在型コンテンツを造成します。 ①環境学習型コンテンツの造成 自然環境や歴史文化資源の保全・再生やその活用などの体験を通じて、参加者の成長を促す学習型のプログラムを造成します。また、プログラムに地域住民との交流や共に地域課題を解決する体験を盛り込むなど、地域への理解や愛着の醸成につなげます。 ②ウェルネス※8増進コンテンツの造成 森林セラピーロードや名水スポットなど、リフレッシュや癒し効果に優れた環境を生かし、ガイド付きで散策することや、地場食材を活用した健康食と組み合わせるなど、森林セラピーやリトリート等といったウェルネスをテーマとしたツアーを造成することで、癒しのエリアとしての認知向上とその確立を図ります。				
実施主体	市、市民・活動団体、民間事業者				
進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒	⇒	＊	⇒	⇒
関連計画	秦野市森林整備計画／秦野市観光振興基本計画				

[8] ウェルネス：世界保健機関（WHO）が国際的に提示した、「健康」定義をより踏み込んで、広範囲な視点から見た健康観を意味する、より良く生きようとする生活態度のこと。輝くように生き生きしている状態

基本方針２　快適な体験機会の拡充（巡る☞触れる・深める）

施策名称	施策２：林道を活用したイベントの充実				
取組内容	本エリア内に複数存在する林道は、自然環境や景観に富み、観光資源としてのポテンシャルに優れています。 市営林道については、通行者の安全確保を前提とし、イベント等の開催の積み重ねによる有効活用方策を推進し、その他の林道については、関係機関と調整とし、活用の可能性に向けた検討を進めます。また、各林道管理者や民間事業者と連携を図りながら、イベント開催の仕組み・ルール作りについて検討します。				
実施主体	市、神奈川県、民間事業者				
ＫＰＩ	林道を活用したイベントの開催回数（年間）				
	理由：林道のイベント活用は、魅力向上に資する特別感を生むため、適正な維持管理のもとで、継続、充実させる。				
	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	20回	21回	22回	23回	24回
関連計画	秦野市森林整備計画／秦野市観光振興基本計画				

施策名称	施策３：特産品などの食コンテンツの開発				
取組内容	本エリア内で従来から栽培されてきた農産物や、本市を代表する資源の一つである秦野名水、さらには、地域内の未利用資源を活用した加工品や料理等の食コンテンツの開発を目指すとともに、販路の開拓についても、キッチンカーなど、新たな地域資源との融合を検討する。				
実施主体	民間事業者、市民・活動団体、市				
進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒	⇒	＊	⇒	⇒
関連計画	秦野市都市農業振興計画／秦野市秦野市観光振興基本計画				

<table>
<tr><th>施策名称</th><th colspan="6">施策４：ガイド人材の積極的な活用</th></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="6">本エリアで活動する活動団体や民間事業者が提供する様々な体験プログラムは、魅力の一つとなっています。（一方、それらの内容が個々の提供者に依存していたことから、体験の質が一定でなく、さらには、担い手の高齢化や人材不足によって安定的な提供体制となっていませんでした。）
そこで、体験プログラムの質の担保や担い手の育成を目的として認定した、一定のクオリティを有する公式ガイド「OMOTANガイド」について、多方面での活動を支援するとともに、積極的な活用を行います。
また、観光ボランティアや森林セラピーガイドとも相互に連携しながら、体験価値を高める取組を推進します。</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="6">市、市民・活動団体</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ＫＰＩ</td><td colspan="6">エリアをフィールドとした年間のOMOTANガイドツアーの満足度（５段階評価）</td></tr>
<tr><td>理由</td><td colspan="5">・活動量だけでなく、質的評価を段階的に取り入れることで、「ガイド体制の成熟度」を適切に示すことができる。
・体験価値そのものが可視化されるとともに、ガイド自身のモチベーションの向上やスキルアップの促進につながる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和８年度</td><td>令和９年度</td><td>令和10年度</td><td>令和11年度</td><td>令和12年度</td></tr>
<tr><td colspan="2">平均3.5以上</td><td>平均3.7以上</td><td>平均3.9以上</td><td>平均4.1以上</td><td>平均4.3以上</td></tr>
<tr><td>関連計画</td><td colspan="6">秦野市観光振興基本計画／秦野市森林整備計画</td></tr>
</table>

基本方針２　快適な体験機会の拡充（巡る☞触れる・深める）

<table>
<tr><td colspan="6">方向性【快適に滞在できる交流・休憩拠点の整備】</td></tr>
<tr><td>施策名称</td><td colspan="5">施策５－１：滞在拠点の整備・充実（①緑水庵・蓑毛自然観察の森の整備・充実）</td></tr>
<tr><td>取組内容
（●は整備が完了した取組）</td><td colspan="5">本エリアの滞在・交流拠点として、国登録有形文化財に登録されている歴史的建造物である緑水庵と近接する蓑毛自然観察の森との一体的な活用を推進します。
●緑水庵：Wi-Fi、多目的広場、駐車場（EV充電設備を含む。）、屋外トイレ（バリアフリー対応）／自然観察の森：散策路（ウッドチップ舗装）
緑水庵は、建具等修繕や進入路改修工事を、自然観察の森は、散策路を整備するほか、市民・活動団体等が主体となったイベントを開催することにより地域住民が気軽に利用できる居場所、登山やサイクリストなどの来訪者の休憩所、さらには、葉たばこ耕作農家の紹介などの展示館、コワーキングスペースなどの滞在拠点、交流の場としての活用を充実させます。</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="5">市、市民・活動団体、民間事業者</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ＫＰＩ</td><td colspan="5">緑水庵の利用者数（年間）</td></tr>
<tr><td>理由</td><td colspan="4">ハード整備の進捗とともに推移を把握し、整備完了後は「満足度指標」へ移行する。</td></tr>
<tr><td>令和８年度</td><td>令和９年度</td><td>令和10年度</td><td>令和11年度</td><td>令和12年度</td></tr>
<tr><td>2,600人</td><td>2,800人</td><td>3,000人</td><td>3,200人</td><td>3,400人</td></tr>
<tr><td>関連計画</td><td colspan="5">緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>施策名称</td><td colspan="5">施策５－２：滞在拠点の整備・充実（②菜の花台園地の休憩所としての魅力向上）</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">菜の花台園地は、来訪者をひきつける優れた景観がある一方で、人を滞留させるサービスが不足していたことから、来訪者の利便性の向上に資する飲食サービス等の検討を進め、キッチンカー協議会による出店を開始しています。
引き続き、SNSでの拡散が期待される写真スポットや、菩提方面からの散策路の整備等を行うことで、滞在拠点としての更なる魅力の向上に取り組みます。</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="5">市、市民・活動団体</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ＫＰＩ</td><td colspan="5">菜の花台園地の利用満足度（５段階評価）</td></tr>
<tr><td>理由</td><td colspan="4">アウトカム指標は、「菜の花台園地＝（見晴らしても）滞在しても美しい景観」という実態の維持・向上に整合する。</td></tr>
<tr><td>令和８年度</td><td>令和９年度</td><td>令和10年度</td><td>令和11年度</td><td>令和12年度</td></tr>
<tr><td>平均3.5以上</td><td>平均3.7以上</td><td>平均3.9以上</td><td>平均4.1以上</td><td>平均4.3以上</td></tr>
<tr><td>関連計画</td><td colspan="5">秦野市観光振興基本計画</td></tr>
</table>

施策名称	施策５－３：滞在拠点の整備・充実（③来訪者の満足度を維持する取組の充実）
取組内容 （●は整備が完了した取組）	登山者やサイクリスト等の来訪者の満足度を高水準に維持するため、整備が完了した設備やサービスの適正管理に努め、更なる利便性の向上に努めます。 ●主要拠点施設：サイクルラックの設置／緑水庵：Wi-Fi、多目的広場、駐車場（EV充電設備を含む。）、屋外トイレ（バリアフリー対応）／自然観察の森：散策路（ウッドチップ舗装）／菜の花台園地：名称看板、防犯カメラ、キッチンカーの出店／ヤビツ峠：道路鋲（キャットアイ）　など
実施主体	市、民間事業者
進行管理	令和８年度：⇒／令和９年度：⇒／令和10年度：＊／令和11年度：⇒／令和12年度：⇒
関連計画	緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針／秦野市観光振興基本計画

進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒	⇒	＊	⇒	⇒

施策名称	施策６：遊休資産の多面的活用
取組内容	里地里山の雑木林や放置竹林、耕作放棄地などのやぶ払いや、伐採等の環境整備を実施するとともに、整備後には、農業体験などの体験プログラムに活用するなど、作業や住民との交流を通じて、参加者の里地里山保全再生への理解の醸成と、本エリアとの関係性の構築を図ります。これは、里地里山の持続可能性及び鳥獣被害の防止にもつながります。 また、空き家バンク制度の情報提供に努め、適切な活用などを推進するほか、農家レストランや農家民泊など、地域の新たな拠点づくりを促進することで、滞在環境の魅力向上につなげます。
実施主体	市、市民・活動団体、民間事業者
関連計画	秦野市森林整備計画／秦野市都市農業振興計画／秦野市空家等対策計画

進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒	⇒	＊		

基本方針２　快適な体験機会の拡充（巡る☞触れる・深める）

<table>
<tr><th colspan="6">方向性【安全で心地よい利用環境の拡充】</th></tr>
<tr><td>施策名称</td><td colspan="5">施策７：トイレ環境の充実</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">トイレの印象が悪いと観光地全体の印象が悪くなるなど、来訪者の快適な滞在のためには、清潔・安心で使いやすいトイレ環境が必要不可欠です。そのため、トイレの印象をおもてなしの一つとして捉え、日常管理と併せて、施設の適切な補修や修繕を行い、清潔で快適に使用できるトイレ環境の充実を図ります。
特に、ヤビツ峠公衆トイレは、表丹沢の玄関口として、多くのハイカーやサイクリストなどが利用する特性を踏まえ、恒常的に快適なトイレ環境の実現に向けて、地域や利用者の声を聞きながら取組を進めます。</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="5">神奈川県、市</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ＫＰＩ</td><td colspan="5">ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度（①におい、②清潔さ、③明るさ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">理由　継続した経過観察（おもてなしの充実）を必要とする。</td></tr>
<tr><td>令和８年度</td><td>令和９年度</td><td>令和10年度</td><td>令和11年度</td><td>令和12年度</td></tr>
<tr><td>全て80%以上</td><td>全て80%以上</td><td>全て80%以上</td><td>全て80%以上</td><td>全て80%以上</td></tr>
<tr><td>関連計画</td><td colspan="5">秦野市観光振興基本計画</td></tr>
</table>

施策名称	施策８：眺望・景観の整備（再掲）
取組内容 実施主体 進行管理 関連計画	＊Ｐ２３をご参照ください。

<table>
<tr><td>施策名称</td><td colspan="6">施策９：マナー等の情報発信の充実</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="6">　本エリアは、登山者やサイクリスト、トレイルランナーなどが多く、一部のマナーの悪い利用者の行動によって、地域住民や来訪者、エリアの環境の安全を脅かしかねません。貴重な自然を守り、地域住民と来訪者が良好な関係を築いていくため、マナー等を徹底するなどの対策が必要です。
　そのため、関係機関や民間事業者等と連携して、自転車と歩行者・自動車の共存を目指し、自転車の安全走行の遵守を目的とした啓発やマナーアップ活動を実施します。また、不法投棄を未然に防止するための啓発看板を設置するほか、安全登山のための心得や、国定公園を楽しく利用するためのマナー（登山道をはずれない、トイレマナー、ゴミの持ち帰りなど）等の効果的な周知・啓発活動を継続的に行います。</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="6">市、神奈川県、関係自治体、市民・活動団体、民間事業者</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ＫＰＩ</td><td colspan="6">啓発イベント等の開催数（年間）</td></tr>
<tr><td>理由</td><td colspan="5">継続した経過観察（安全性の確保）を必要とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和８年度</td><td>令和９年度</td><td>令和10年度</td><td>令和11年度</td><td>令和12年度</td></tr>
<tr><td colspan="2">4回</td><td>4回</td><td>4回</td><td>4回</td><td>4回</td></tr>
<tr><td>関連計画</td><td colspan="6">秦野市交通安全計画／秦野市観光振興基本計画／秦野市ごみ処理基本計画</td></tr>
</table>

基本方針３　横断的な地域連携（深める・つながる・支える☞また訪れる）

本エリアでの体験を通じて芽生えた関心を、地域との持続的なつながりへ発展させるため、情報共有・発信の一体化と、未来会議を核とした協働の枠組みを強化します。さらには、魅力創出事業の提案など、地域内外との関わりしろ※[9]を広げる取組を進めることで、**「深める・つながる・支える☞また訪れる」**の好循環を形成することを目指します。

これにより、地域連携の基盤を育て、来訪者が主体的に関わり続ける動きを生み、持続的な魅力づくりにつなげていきます。

方向性【地域をつなぐ情報共有と発信の推進体制】

施策名称	**施策１：観光情報等の充実**
取組内容	本エリアの多様な観光資源や体験プログラム等の情報が、未だ地域内外に十分に知られていないという課題があります。 そこで、時宜に応じた観光情報等の提供について、表丹沢総合ホームページ「OMOTAN」や公式Instagram等を戦略的に活用（インフルエンサー等）し、的確にターゲット層へ届く情報発信に取り組むとともに、パンフレット作りなどは、エリア内の事業者等と連携することで、来訪回数の増加や回遊性の向上につなげます。 併せて、気候や有害鳥獣等に係る注意喚起についても、重要な情報発信として取り組みます。 さらに、表丹沢の魅力発信拠点である表丹沢野外活動センターや、田原ふるさと公園などの周辺施設との連携を図るとともに、伊勢原市や厚木市、清川村等の近隣自治体や県及び交通事業者などで組織している丹沢大山観光キャンペーン推進協議会などと連携し、イベントの開催や広域の観光パンフレットの作成など、一体的なＰＲを行います。
実施主体	市、関係自治体、市民・活動団体、民間事業者

ＫＰＩ

①エリア内に関連したSNS（Instagram）の発信回数

理由　発信力の高いSNS（観光振興課やOMOTANのほか、民間事業者（ヤビツ峠レストハウス）など）を最大活用する。

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
12回以上	12回以上	12回以上	12回以上	12回以上

②Instagram（ストーリーズ）のアンケート回答数　※月末の投稿を想定

理由
- インスタグラムは、本計画及び表丹沢魅力づくり構想でも主要な情報発信媒体として位置付けており、かつ１万人を超えるフォロワー数との双方向性は魅力的である。
- 清掃やガイドツアーなど、他の施策に対する「満足度、さらには参加意欲や情報到達度」を副次的に示す指標として把握できる。

令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
●件	●件	●件	●件	●件

試験的導入結果を見て設定

関連計画	秦野市観光振興基本計画

[9] 関わりしろ：地域やプロジェクトに対して、自身の興味やスキルに応じて自由に関与できる余地や機会

施策名称	施策２：マナー等の情報発信の充実（再掲）
取組内容 実施主体 ＫＰＩ 関連計画	＊Ｐ３０をご参照ください。

方向性【協働で運営する体制づくり】					
施策名称	施策３：包括的な推進体制の構築				
取組内容	本エリアでは、様々な活動団体・民間事業者等が地域資源を活用したサービスを提供していますが、それぞれの活動内容が見えにくく、情報の獲得機会が失われていました。そこで、地域活動団体・民間事業者を中心に構成するコーディネート組織として、「ヤビツ峠・蓑毛未来会議」を設置し、構成メンバーが気軽に相談でき、互いの意見や考えを地域内で共有できるような各主体間の連携を促進しています。 今後は、本計画に基づく施策を円滑に進めるため、必要に応じてプロジェクトチームを編成するほか、地域住民や外部との交流、イベントの開催など、地域内外をつなぐ総合的な窓口としての役割を果たすような体制を構築します。				
実施主体	市、関係自治体、市民・活動団体、民間事業者				
進行管理	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	⇒	⇒	＊	⇒	⇒
関連計画	秦野市観光振興基本計画				

施策名称	施策４：地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり				
取組内容	人口減少の加速化により、地域の人材だけで地域運営や各取組を進めていくことには限界が生じつつあります。本エリア周辺の魅力や可能性、課題に興味を持つエリア内外の人材を巻き込みながら、地域住民や地域事業者とともに事業を実施する機会の創出を図ります。				
実施主体	市民・活動団体、民間事業者、市				
ＫＰＩ	エリア内の資源を活用した魅力創出事業の提案数（年間）				
	理由：起業ではなく、「提案の段階を評価対象とする」ことで、過度な負担を避けながらも、地域主体性の芽を拾い上げることができる。				
	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	2件	2件	2件	2件	2件
関連計画	―				

施策名称	施策５：観光情報等の充実　（再掲）
取組内容 実施主体 ＫＰＩ 関連計画	＊Ｐ３１をご参照ください。

第４章　計画の実現に向けて

Ⅰ　推進体制

本エリアの魅力をより一層高めていくためには、市民や活動団体、来訪者、民間事業者、行政の各主体の役割を明確にした上で、その役割に応じた連携・協働の取組が重要となります。そのため、各施策においては、必要に応じてプロジェクト組織等の体制づくりを行いながら、取組を推進していきます。

(1)　行政の役割

本市は、上位計画や本計画に基づく施策を円滑に進めるため、滞在環境や道路環境のの充実などのほか、市民や活動団体、民間事業者の活動をサポートする人材育成や事業推進に係る取組を検討します。

また、これらの取組は、地域住民や地権者等の理解と協力を得ながら、かつ関係部局間での連携のほか、国や県をはじめ、関係市町村や市民、民間事業者などとの協働により進めます。

(2)　市民及び活動団体の役割

市民及び活動団体は、本計画の実現が地域の魅力や生活の質の向上につながることを認識し、地域の活動へ主体的に参加します。その中において、地域資源や地域内外の人材に触れる機会を増やすことで、一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ち、「ホスピタリティ（おもてなし）の心」を持って来訪者を迎え入れるように努めます。

また、行政や民間事業者と連携しながら、来訪者が快適かつ安全に楽しむことができる地域づくりに積極的に参画するとともに、自らが地域の魅力を理解し、発信することで、次世代へその魅力をつなげていきます。

(3)　民間事業者の役割

秦野市観光協会及び秦野市森林組合を中心に、観光事業者、交通事業者等の民間事業者は、地域産業の担い手として、市民や活動団体、行政と連携しながら、積極的に地域資源を発掘し、磨き、つなげていくことで、地域の魅力を向上させる取組を進めます。

また、自らの事業活動において、自然や景観、歴史文化など、地域が持つ資源を損なうことのないよう、環境保全活動等に協力します。

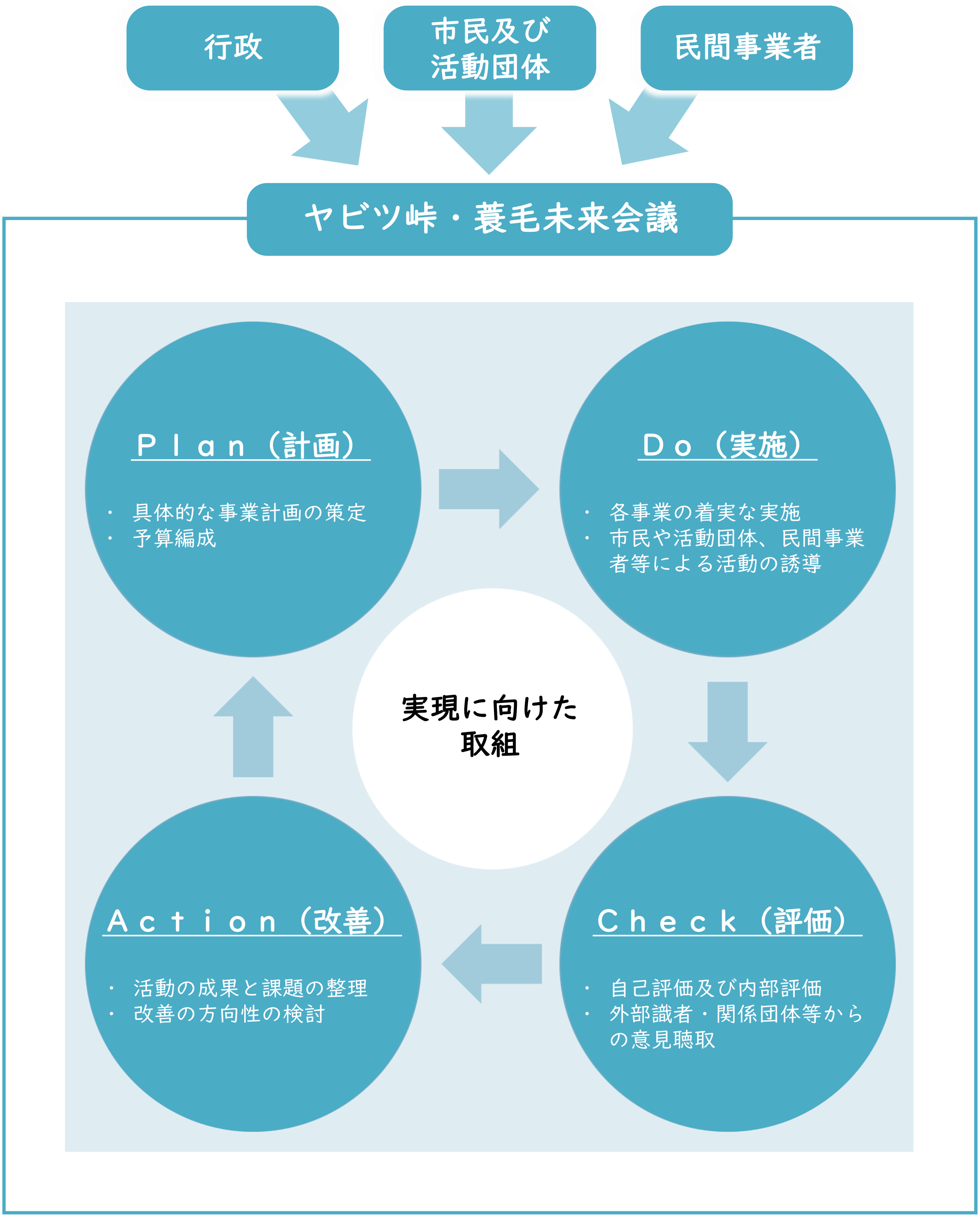
(4)　来訪者の役割

地域の環境をより良い状態で次世代へとつなげていくには、地域内だけではなく、来訪者の協力が欠かせません。来訪者の一人ひとりが、本市の魅力を理解し、マナーを守るとともに、ゴミの持ち帰りや清掃等、環境保全の取組に努めます。

２　進行管理

本計画は、表丹沢魅力づくり構想のアクションプランであることから、上位計画との整合性を図りながら、コンセプトである「自然と歴史文化がいきづく自分らしさに出会える場所」を実現するため、計画に掲げた具体的な施策を進めていきます。

そして、年度ごとに各施策の振り返りと進捗状況の確認（ＰＤＣＡサイクル）を行うことで、事業・活動の成果と課題を明確化するとともに、未達成等の施策については、その要因や問題点を分析し、その後の施策に反映させていきます。なお、各施策の成果や進捗のほか、様々な社会変化等に対しては、柔軟かつ的確に対応します。



秦野市
Hadano City
自然と歴史文化がいきづく 自分らしさに出会える場所